

# クモイナズナ アブラナ科

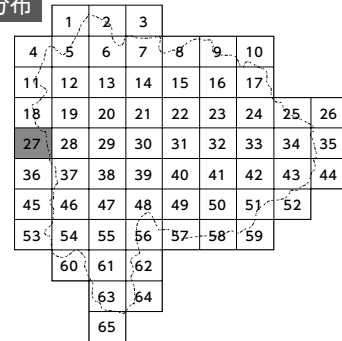
*Arabis tanakana Makino*

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 II 類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

## 分布



**形態** 多年草。高さ 4 ~ 12cm。根生葉は倒披針形、長さ 3.5 ~ 10mm、全縁または浅い鋸歯がある。葉の両面に星状毛が多くある。花は白色。長角果は線形、長さ 10 ~ 12mm。花期は 7 ~ 8 月。

**生育環境** 北アルプス：白馬岳・東岳、南アルプス：間の岳・千枚岳など（原色新日本高山植物図鑑II）の高山帯の砂礫地。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 1。個体数は非常に少ない。今回の調査で 1 メッシュ 1 カ所での確認ができた。

**特記事項** 本種については、「山梨の植物誌 1981 (昭和 56) 年 植松春雄」、国立科学博物館には「1952.7.30 末木 甲斐北岳」「1925.5.8 小泉 北岳」「2006.7.31 大久保・菟原 北岳」の標本がある。 具体的要件①②

# ハナハタザオ アブラナ科

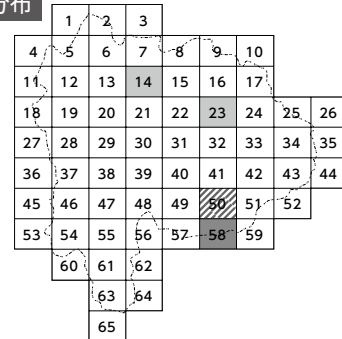
*Dontostemon dentatus (Bunge) Ledeb. var. dentatus*

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

## 分布



**形態** 2 年草。茎は直立し、草丈は 15 ~ 50cm。葉は互生し有柄、葉身は長さ 2 ~ 8cm の線状披針形で、両端は細くなり有毛、全縁。花は茎の上部に総状につき、花弁は紅紫色、長さは 8 ~ 10mm の倒卵形で先端は円形。果実は長さ 2 ~ 6mm の線形、無毛。花期は 6 ~ 8 月。

**生育環境** 本州の中部地方から東北南部に分布し、山地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 2。富士北麓方面に偏る。自然遷移による絶滅が危惧される。

**特記事項** 「山梨の植物・1981 年 (昭 56) 植松春雄」には記載されておらず、2005 年調査では出現メッシュ数 3 であった。これまでの経過から 2005 年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件②

# キタダケナズナ (ハクホウナズナ) アブラナ科

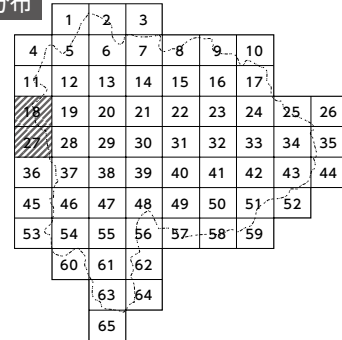
*Draba kitadakensis Koidz.*

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

## 分布



**形態** 多年草。高さ 10 ~ 15cm。茎は短く枝分かれする。根生葉は低い突起状鋸歯があり、茎葉は全縁に近いものと鋸歯があるものがある。茎と葉の両面に星状毛を密生する。花序は単純毛を密生し、星状毛が混じる。花は白色。短角果は線状長楕円形でねじれる。花期は 6 ~ 7 月。

**生育環境** 高山帯の岩上。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 2。個体数が少ない。踏みつけによる絶滅が危惧される。

**特記事項** ヤツガタケナズナは本種に属する見方がある。 具体的要件②

# ミヤマツチトリモチ ツチトリモチ科

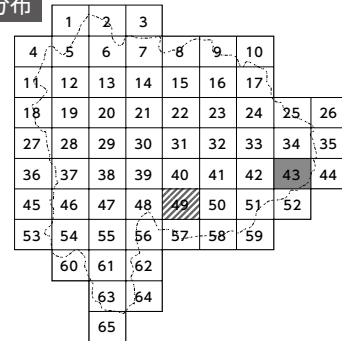
*Balanophora nipponica Makino*

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 II 類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

## 分布



**形態** 無葉緑の寄生植物。雌雄異株。雄株は発見されていない。高さ 8 ~ 14cm。花序は長楕円形～楕円形で、黄赤色～褐色。成長した寄生根は塊根で緑褐色を帯び、巨大な塊となり、木質化する。

**生育環境** 落葉広葉樹林下に稀に生える。ムクロジ科カエデ属 (ウリハダカエデ、ウリカエデ) 等の根に寄生。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 2。森林伐採による絶滅が危惧されるので、伐採については、十分な検討が必要。

**特記事項** 具体的要件②

# ホザキヤドリギ オオバヤドリギ科

*Loranthus tanakae* Franch. et Sav.

**形態** 落葉低木。ナラ類やクリ、ズミなどに寄生する。葉は対生し有柄、葉身は長さ2～3cmの楕円形から長楕円形、全縁で先端は円い。花は長さ2.5mmくらいで黄緑色、花被片は6枚、枝の先端に穂状につける。果実は径5～6mmで球形、淡黄色に熟す。花期は6～7月。

**生育環境** 本州中部から北部に分布し、夏緑広葉樹上に寄生。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数3。森林伐採、自然遷移による絶滅が危惧される。

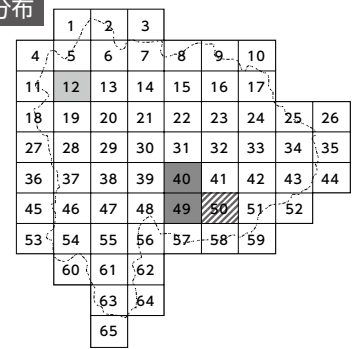
**特記事項** 「山梨の植物・1981年(昭56)植松春雄」によると「普通に生育」と記載されているが、今回の調査でも、出現メッシュ数が少なかった。 具体的要件③④

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類 (CR)

分布



# タガソデソウ ナデシコ科

*Cerastium pauciflorum* Steven ex Ser. var. *amurense* (Regel) M.Mizush.

**形態** 多年草。茎の上部は腺毛を混生する毛を生じて直立し、草丈は30～40cm。葉は対生しほぼ無柄、葉身は長さ4～9cmの披針形から卵状披針形で鋭尖頭、両面に伏毛を生じる。花は茎の先端につけ、花弁は白色で5枚あり長楕円状へら形、先端は円形。花期は5～6月。

**生育環境** 本州中部に分布し、山地の林床に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。森林伐採、自然遷移による絶滅が危惧される。

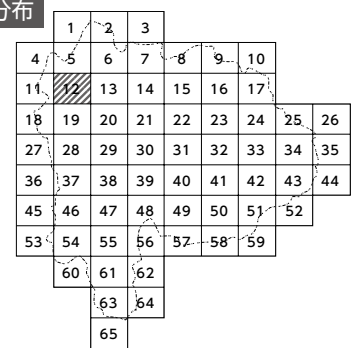
**特記事項** 「山梨の植物・1981年(昭56)植松春雄」には記載されておらず、また今回の調査でも出現メッシュ数1と少なかった。 具体的要件①②

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類 (CR)

分布



# タカネマンテマ ナデシコ科

*Silene uralensis* (Rupr.) Bocquet

**形態** 多年草。高さ10～20cm。茎葉は2～3cmで倒披針形。花は茎頂に1個つき、萼筒に細毛があり暗紫色の10脈がある。花弁は萼筒に隠れわずか見る程度。花期は7～8月。

**生育環境** 高山帯の岩石地や砂礫地。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1で個体数が少ない。踏みつけや花が独特な形をしているので、興味半分での採取による絶滅が危惧される。

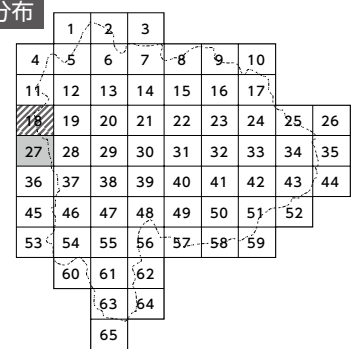
**特記事項** 山梨県希少野生動物植物種の保護に関する条例による採取規制。2005年出現メッシュ数は2であるが今回は報告数は1メッシュである。絶滅が危惧される。 具体的要件②④

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類 (CR)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類 (CR)

分布



# シコタンハコベ ナデシコ科

*Stellaria ruscifolia* Pall. ex Schtdl.

**形態** 多年草。高さ5～15cm。葉は柄がなく長卵形～卵形で無毛。長さ1～3cm。花は径約1.5cmで、花弁は白色5枚。深く2列するので、10枚に見える。雄しべの葯は赤く目立つ。花期は7～8月。

**生育環境** 高山帯の岩場。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数3。個体数は少ない。踏みつけによる絶滅が危惧される。

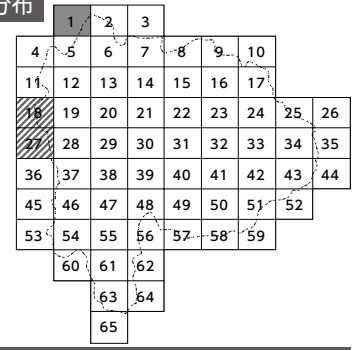
**特記事項** 具体的要件③④

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧ⅠA類 (CR)

分布



植物  
ⅠA類

# ヤマゴボウ ヤマゴボウ科

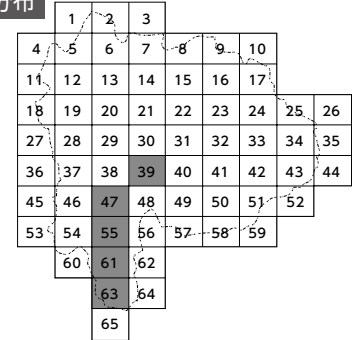
*Phytolacca acinosa* Roxb.

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

## 分布



**形態** 多年草。茎の長さ40～80cm。上部で分枝し、茎頂に穂状花を密に着ける。花は白色、雄蕊の葯は淡紅色。果実は5～8個の分果。秋に萼片、花柄は紅色になり、果実は黒色に熟し、目立つ。花穂は直立し、垂れない。根の断面は年輪状になる。

**生育環境** 山地の道路脇の林縁や荒地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数5。生育個体数は少ない。環境変化による絶滅が危惧される。2005年では情報不足としたが、今回県南部を中心に確認された。メッシュ数、個体数から判断してI A 類とした。

**特記事項** 本種は帰化植物であるが個体数が少ないため掲載した。 具体的要件④

# ユキワリソウ サクラソウ科

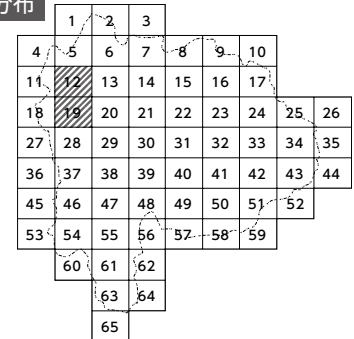
*Primula modesta* Bisset et S.Moore subsp. *modesta* (Bisset et S.Moore) Pax var. *modesta*

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

## 分布



**形態** 小型の多年草。葉はへら状長楕円形、葉裏は淡黄色の粉状物で覆われている。葉間から5～10cmの花茎を出し淡紫紅色の花を数輪つける。花期は5月。

**生育環境** 山地帯から亜高山帯にかけての湿気のある岩場。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。分布域は狭く、環境の改変によっては減少が懸念される。

**特記事項** 山梨県希少野生動植物種の保護に関する条例による採取規制。具体的要件②

# サツキ ツツジ科

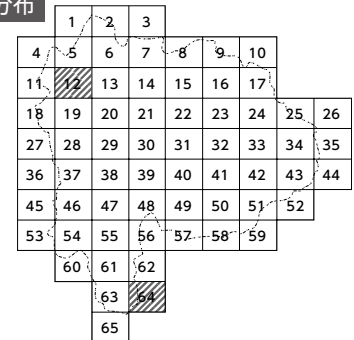
*Rhododendron indicum* (L.) Sweet

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

## 分布



**形態** 半常緑低木。高さ50～90cm。葉は披針形、裏面脈状に褐色の剛毛がある。花は新芽が伸び出してから咲く。花色は朱紅色で、花期は5～6月。多くの園芸種がある。

**生育環境** 日本の分布は関東以西。本県でも川岸の岩場などに生育するが、個体数は少ない。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。環境の改変、園芸採取などにより減少が懸念される。

**特記事項** 具体的要件②④

# ムラサキツリガネツツジ ツツジ科

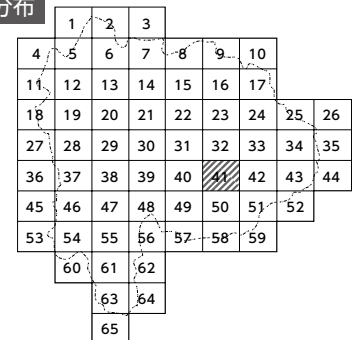
*Rhododendron lasiophyllum* (Nakai) Yonek. var. *lasiophyllum* comb.nud.

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 II 類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

## 分布



**形態** 落葉低木。葉の表面に長い粗毛が密に生える。花柄は開出する腺毛と長毛が密生する。萼は浅い皿形で5裂。花冠は大きく、長さ15mm前後で濃紫色。

**生育環境** 山地の崖や岩礫地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。富士山周辺や箱根地方に稀産。採取による絶滅の危険性が高い。

**特記事項** 本種は葉の表面の毛の少ない、フジツリガネツツジと呼ばれるものも同一種として扱った。 具体的要件①②

# アリドオシ アカネ科

*Damnacanthus indicus* C.F.Gaertn. subsp. *indicus*

**形態** 常緑小低木。樹高は20～60cm。枝は二又に分枝し、節に鋭い刺を生じる。葉は対生し短柄をつける。葉身は長さ7～20mmの広卵形から卵円形、鋭頭、光沢があり無毛。花は枝先または葉腋に通常2個つける。花冠は白色で漏斗状。果実は径4～5mmの球形、紅熟する。花期は4～5月。

**生育環境** 日本では関東以西から沖縄まで分布する暖地性植物。山梨県では南部町以南に生育する。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。県内での生育地が限られ、自然遷移による絶滅が危惧される。

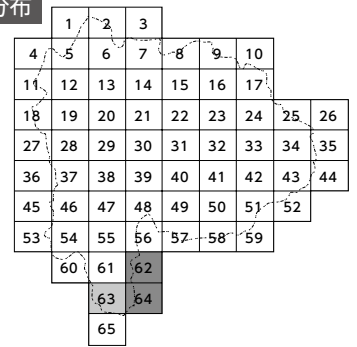
**特記事項** 「山梨の植物・1981年(昭56)植松春雄」によると「少」と記載されており、今回の調査では生育地3カ所で、出現メッシュ数2となった。 具体的要件③④

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A類 (CR)

## 分布



# サンプリンドウ リンドウ科

*Comastoma pulmonarium* (Turcz.) Toyok. subsp. *sectum* (Satake) Toyok.

**形態** 2年草。高さ5～20cm。茎葉は長楕円形～広披針形、長さ1～2cm。花は上部の腋に1または2個つく。花冠は淡紫色で、長さ1～1.5cm、裂片は卵形。萼片の長さ4～5mm。花期は8月下旬から9月。

**生育環境** 高山帯の日当たりのよい砂礫地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。個体数は少ない。踏みつけによる減少が懸念される。

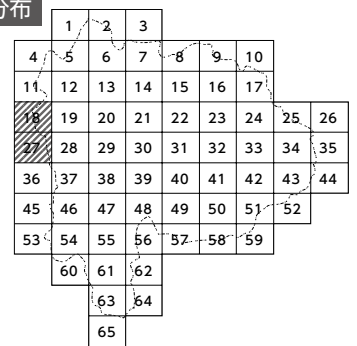
**特記事項** 具体的要件②④

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 IB類 (EN)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A類 (CR)

## 分布



# アカシリンドウ リンドウ科

*Gentianopsis yabei* (Takeda et H.Hara) Ma ex Toyok. var. *akaisiensis* T.Yamaz.

**形態** 1年草または2年草。高さ5～30cm。茎は紫色を帯びることが多い。茎葉は卵状披針形～楕円形、長さ1～4cmで、茎を抱く。花柄は直立し長さ2～8cm。萼筒は長さ5～10cm。花冠の長さ7～25mm、花冠裂片は青紫色。花期は8月下旬から9月。

**生育環境** 高山帯の日当たりのよい砂礫地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。個体数が少なく、背が低いので、踏みつけによる絶滅が危惧される。

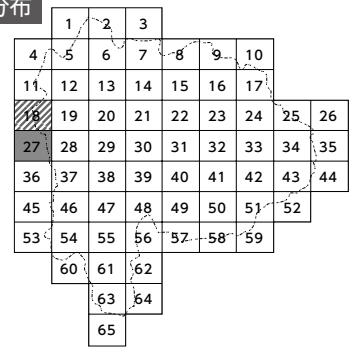
**特記事項** 具体的要件②④

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 IB類 (EN)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A類 (CR)

## 分布



# ヒメセンブリ リンドウ科

*Lomatogonium carinthiacum* (Wulfen) Rchb.

**形態** 1年草または2年草。高さ2～10cm。茎葉は卵形または長楕円形で、長さ10～15mm。花は茎頂に1～3個付く。萼は4～5深裂、花冠も4～5深裂で、淡紫青色で赤黄色の脈がある。花期は8月下旬～9月。

**生育環境** 高山帯の草地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。個体数が少ない。背が低いので、踏みつけによる絶滅が危惧される。

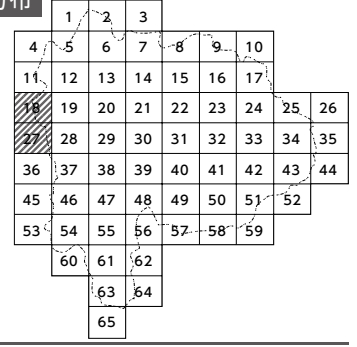
**特記事項** 具体的要件②④

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 IB類 (EN)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A類 (CR)

## 分布



I A類  
植物

# ホンバツルリンドウ リンドウ科

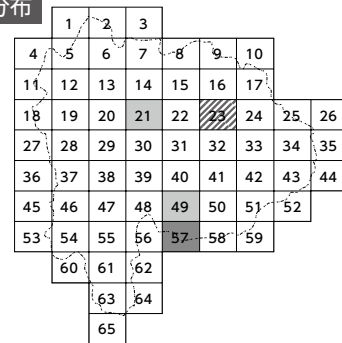
*Pterogalax volubilis Maxim.*

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 II 類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

## 分布



**形態** 多年草。ツルリンドウに似るが、茎は細く他の物に巻き付く。葉は狭い披針形で先は鋭く尖り、裏面は紫色にならない。花は葉腋に1個つき、淡紫色を帯びた白色。筒状で先は4裂する。花期は9～10月。

**生育環境** 山地の草原や林縁、登山道、林道沿いに生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。林道や作業道の改変などによる絶滅が危惧される。

**特記事項** 2005年調査では出現メッシュ数3。これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件③

# ミヤマアケボノソウ リンドウ科

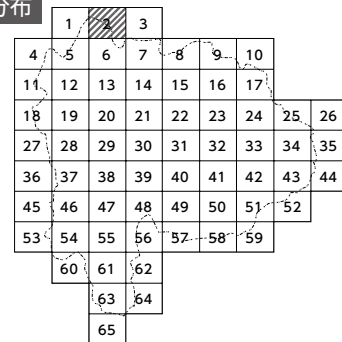
*Swertia perennis L. subsp. cuspidata (Maxim.) H.Hara*

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

## 分布



**形態** 多年草。茎は高さ10～30cmで4稜がある。根出葉は長い柄があり、楕円形～広卵形。茎葉は柄が短く、卵形。花は青紫色。花期は8～9月。

**生育環境** 高山のやや湿った岩石地や草地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。本県では個体数が非常に少ない。土砂崩壊や自然遷移による絶滅が危惧される。

**特記事項** 具体的要件①

# ミヤマムラサキ ムラサキ科

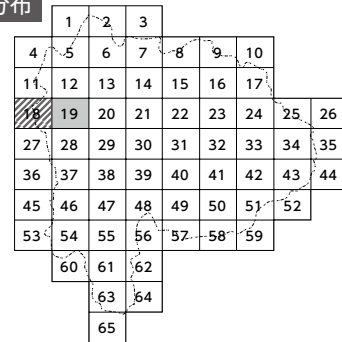
*Eritrichium nipponicum Makino var. nipponicum*

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

## 分布



**形態** 多年草。株全体にあい毛を生じ、草丈は10～20cm。葉は無柄、根生葉は長さ3～6cmで線状ひ針形、茎葉は互生し1～2.5cmで披針形。花は淡青紫色で5裂し径8mm、茎頂に総状につく。果実は長さ1.5mmくらい、縁に1列のかぎ状の刺がある。花期は7～8月。

**生育環境** 本州以北に分布し、高山の砂礫地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。個体数は少ない。自然遷移による絶滅が危惧される。2005年調査では出現メッシュ数2であり、これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育の可能性が有る。

**特記事項** 「山梨の植物・1981年(昭56)植松春雄」によると「極稀」と記載され、今回の調査では出現メッシュ数1、生育域が極在している。 具体的要件②

# アオホオズキ ナス科

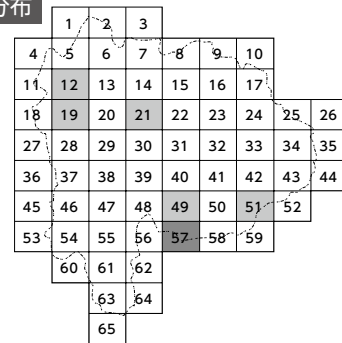
*Physalisstrum japonicum (Franch. et Sav.) Honda*

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 II 類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 II 類 (VU)

## 分布



**形態** 多年草。茎は分枝し40～70cm。葉は長楕円形。花冠は淡緑色。液果は楕円形で長さ1～1.3cm。顎は果時に壺形。花期は6～7月。

**生育環境** 山地帯の湿った樹林下に生育する。個体数は少ない。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。動物による食害、森林伐採や植生遷移による個体数の減少が懸念される。これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。

**特記事項** 2005年調査では出現メッシュ数5。今回の調査では出現メッシュ数1と減少のためI A 類として継続調査を行っていく。 具体的要件③④

# ヤチダモ モクセイ科

*Fraxinus mandshurica* Rupr.

**形態** 落葉高木で30mに達する。葉は対生し、長さ40cmの奇数羽状複葉。小葉は3～5対。小葉の長さ6～15cm、幅2～5cm、狭長楕円形で、小葉の付け根に茶褐色の縮れた毛が密につく。雌雄異株。前年の枝の葉腋から円錐花序をだす。花期は4～5月。

**生育環境** 山地帯の落葉広葉林内に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 2005年出現メッシュ数2。今回の調査では、山梨県分として確認できなかったが、これまでの経過から継続してI A類とした。

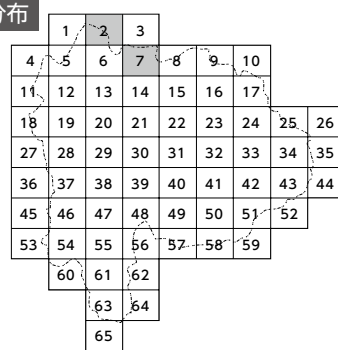
**特記事項** 信州峠のものは長野県分である。木本でもあり、過去に報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件②

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A類 (CR)

分布



I A類  
植物

# キタダケトラノオ オオバコ科

*Varonica ovata* Nakai subsp. *kiusiana* (Furumi) Albach var. *kitadakemontana* (T. Yamaz.) Yonek.

**形態** ツクシトラノオの変種。多年草。高さ50～70cm。葉は対生し柄がある。茎や花序に曲がった毛がある。ツクシトラノオの葉は広卵形に対し、本種の葉は三角状披針形で鋭い鋸歯がある。茎の先に長い花序を作る。花冠は青紫色で、筒部は花冠の1/2くらい。花期は8月。

**生育環境** 北岳周辺の山地帯上部の草地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。個体数は非常に少ない。自然遷移による絶滅が危惧される。

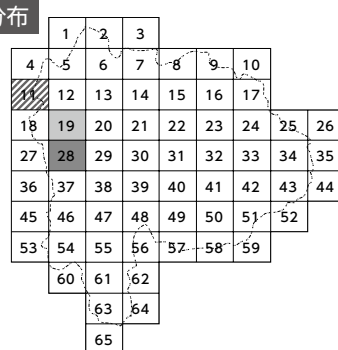
**特記事項** 具体的要件②

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 II類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A類 (CR)

分布



# ツルカコソウ シソ科

*Ajuga shikotanensis* Miyabe et Tatew.

**形態** 多年草。株全体に長い柔縮毛を生じ、草丈は10～30cm。花後、つる性の走出茎を生じる。根生葉は長柄を持ち広倒披針形から倒披針形で鈍頭、茎の葉は対生し長さ2～4cmの狭倒卵形で鈍頭、基部は急に狭くなり短柄をつける。花は淡紫色で長さ7mmで下唇は3裂する。花期は5～6月。品種のケバツルカコソウ (A. shikotanensis f. hirsuta) は粗毛を密生させる。

**生育環境** 本州に分布し、丘陵地の草地に生育。ケバツルカコソウは本州中部に分布。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。自然遷移、産地極限による絶滅が危惧される。

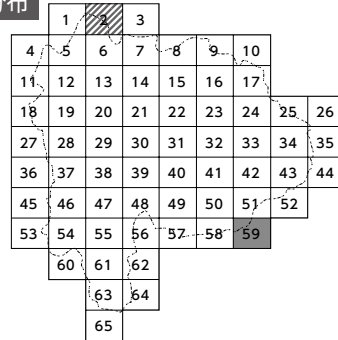
**特記事項** 「山梨の植物・1981年(昭56)植松春雄」には記載されておらず、今回の調査でも出現メッシュ数2。全体に粗い毛が密生するケバツルカコソウとも併せて調査したい。 具体的要件②

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 II類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A類 (CR)

分布



# オオナンバンギセル ハマウツボ科

*Aeginetia sinensis* G. Beck

**形態** 1年生の寄生植物。ナンバンギセルより全体に大きく、花茎の長さ20～30cm。萼の長さ3～5cm。花冠は紅紫色で、長さ4～6cm。花期は8～9月。

**生育環境** 山地の草原に生育。ススキ、カリヤスモドキなどの根に寄生する。草原植生遷移による個体数の減少が懸念される。草原の維持が必要。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数3。寄生植物なのでシカの食害等により寄生が減少し、それに伴って減少が危惧される。

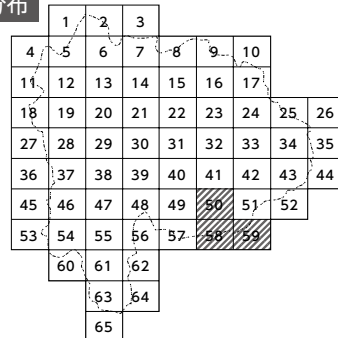
**特記事項** 個体数の減少から2005年調査でI B類としたが、今回からI A類とする。 具体的要件③④

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I B類 (EN)

分布



# オニク ハマウツボ科

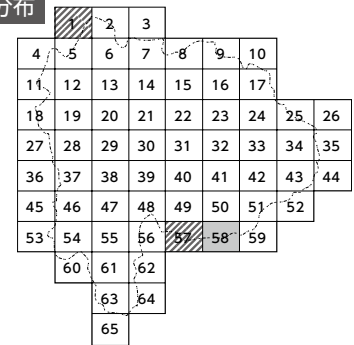
*Boschniakia rossica* (Cham. et Schldl.) B.Fedtsch.

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I B 類 (EN)

## 分布



**形態** 寄生植物。ミヤマハンノキの根に寄生し、茎は太く直立し 15 ~ 35cm で、基部は塊状で多くの鱗片葉がある。花は穂状に多数の唇形花をつける。下唇は 3 裂して縮毛があり、雄蕊は 4 本。花期は 7 ~ 8 月。

**生育環境** 亜高山帯 ~ 高山の砂礫地や岩礫地に生育する。最近では極端に減少した。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 2。過去には富士山に多く自生していたが、最近では極端に減少した。原因は採取によると思われる。そのまま放置すると絶滅の危惧の恐れが非常に高いため今回 IA 類とした。

**特記事項** 2005 年調査では出現メッシュ数 3。過去に報告のあった場所にも生育が考えられる。具体的要件②④

# ハマウツボ ハマウツボ科

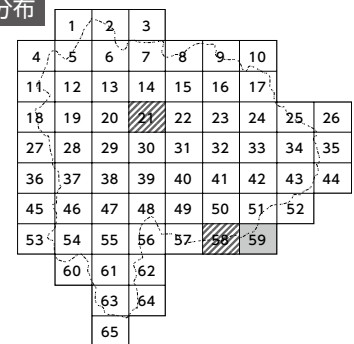
*Orobanche coerulescens* Stephan ex Willd.

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 II 類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I B 類 (EN)

## 分布



**形態** 1 年生の寄生植物。花茎は高さ 10 ~ 25cm、黄褐色でまばらに軟毛が生える。茎の上部に淡紫色の花を密つける。花冠は約 2cm、白色の軟毛が密生する。花期は 5 ~ 7 月。

**生育環境** 河原の砂地に生育。ヨモギ、オトコヨモギ、カワラヨモギの根に寄生。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 2。地形・植生の変化による減少が懸念される。今回の調査では個体数が少なく IA 類とした。

**特記事項** 全体に毛が少なく、丘陵地の日当たりのよい草地に生え、オトコヨモギに寄生するオカウツボとあわせて継続調査が必要である。具体的要件②④

# ムシトリスミレ タヌキモ科

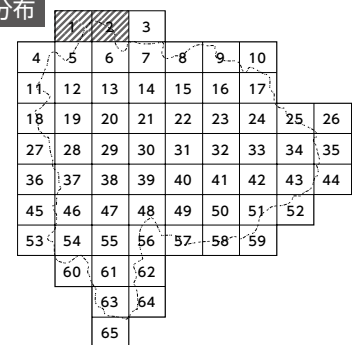
*Pinguicula vulgaris* L. var. *macroceras* (Pall. ex Link) Herder

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

## 分布



**形態** 多年生の食虫植物。葉は長楕円形でロゼット状につく。花茎は 1 ~ 3 本出て高さ 5 ~ 15cm になり、上方にまばらに腺毛がある。花は淡紫色で、花冠には細長くまっすぐな距がある。花期は 7 ~ 8 月。

**生育環境** 亜高山帯 ~ 高山帯の湿り気の多い岩壁や草地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数は 2 で分布域が限られている。生育環境が厳しく、個体数が少ない。

**特記事項** 山梨県希少野生動物植物種の保護に関する条例による採取規制。具体的要件②

# タヌキモ タヌキモ科

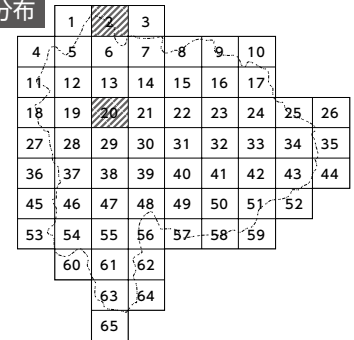
*Utricularia x japonica* Makino

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

## 分布



**形態** 池や水田などに浮遊する多年生の食虫植物。水中葉は細かく分かれ捕虫囊をつける。花は長さ 10 ~ 25cm の花軸につく。花は黄色。花期は 7 ~ 9 月。

**生育環境** 古い池や沼地、水田などに生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 2。分布域が限られており、生育地の個体数も少ない。自然遷移による絶滅が危惧される。

**特記事項** 具体的要件②

# トダイハハコ キク科

*Anaphalis sinica* Hance var. *pernivea* T.Shimizu

**形態** ヤハズハハコの変形で、石灰岩地に生える多年草。「pernivea 真っ白な」という学名どおり、全体に白い綿毛が密生する。草丈10～15cmぐらい。ヤハズハハコと識別が困難なものがある。

**生育環境** 山地帯から亜高山帯の岩場に生育。石灰岩特有植物。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。山梨県内では個体数が少ない。土砂崩壊などによる絶滅が危惧される。

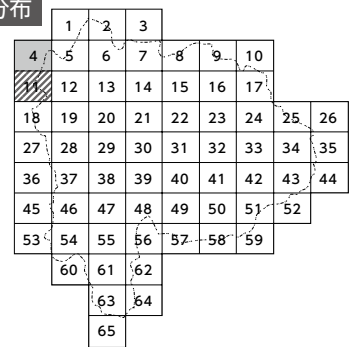
**特記事項** 2005年調査では出現メッシュ数2。これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件②

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 II 類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

分布



# ハハコヨモギ キク科

*Artemisia glomerata* Ledeb.

**形態** 多年草。高さ5～15cm。全体に白色の絹毛がある。有花茎は2～3の葉が互生し、長さ1～2cm、扇形で掌状に3～4中裂。頭花は散房状に密集し、上向きにつく。花期は7～8月。

**生育環境** 高山帯の岩場に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。個体数は少ない。自然遷移や踏みつけによる減少が懸念される。

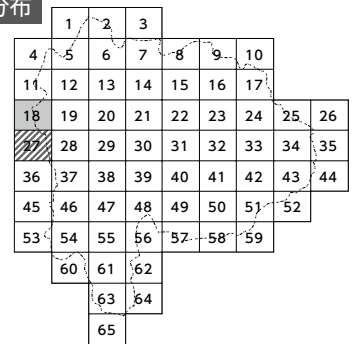
**特記事項** 2005年調査では出現メッシュ数2であり、これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育の可能性が。 具体的要件②

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 II 類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

分布



# オオガクビソウ キク科

*Carpesium macrocephalum* Franch. et Sav.

**形態** 多年草。高さは1mほどになる。茎はよく枝分かれし、縮れた毛が生える。根生葉は花時にはない。上部の枝先に径2.5～3.5cmの大きな頭花をつける。頭花の基部の苞葉は多くてよく目立つ。花期は8～10月。

**生育環境** 山地帯のやや湿ったところに生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数4。個体数は非常に少ない。採取される心配はないと思われるが道端に多く生育し草刈作業や付近の環境変化による減少が懸念される。

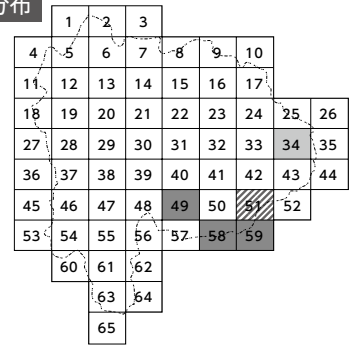
**特記事項** 具体的要件④

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

分布



# クサノオウバノギク キク科

*Crepidiastrum chelidoniifolium* (Makino) Pak et Kawano

**形態** 茎は高さ15～45cm。茎葉は長さ3.5～11cm、幅1～5cm。葉は薄く羽状に全裂し、クサノオウ(ケシ科)の葉に似ている。茎葉は茎を抱き裂片に柄がある。総苞は狭い円柱形で長さ約6mm前後、頭花は黄色で5個の小花がある。花期は8～11月。

**生育環境** 山地帯の落葉広葉樹林床に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。林床にコケ類とともに極わずかな生育。生育地の植生変化による絶滅が危惧される。

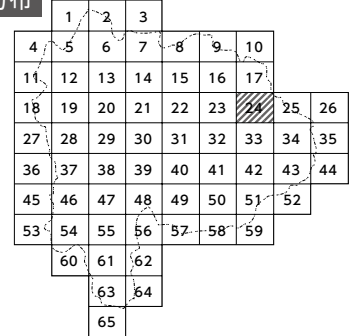
**特記事項** 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 II 類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

分布



I A 類 植物



# アズマギク キク科

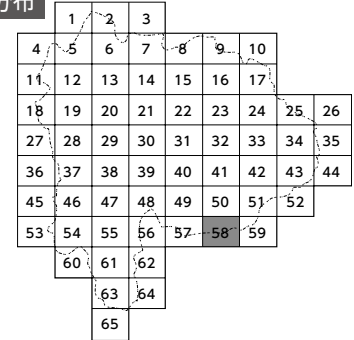
*Erigeron thunbergii* A.Gray subsp. thunbergii

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

分布



**形態** 多年草。茎は叢生、又は単生、高さ 10 ~ 30cm。密に毛がある。ロゼット葉はサジ形、茎葉は幅の狭い小形で葉縁にけがある。頭花は 5 ~ 6 月頃茎頂に単生し、径 3 ~ 3.5cm の淡紫色の花をつける。

**生育環境** 山地の乾いた草地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 1。草原の環境変化、自然遷移等による減少が懸念される。今回の調査で県内で 1 カ所確認されたので IA 類とした。

**特記事項** 「山梨の植物・1981 年（昭 56）植松春雄」に記載されているが、今回の調査で県内の草原に生育が確認された。 具体的要件①

# タカサゴソウ キク科

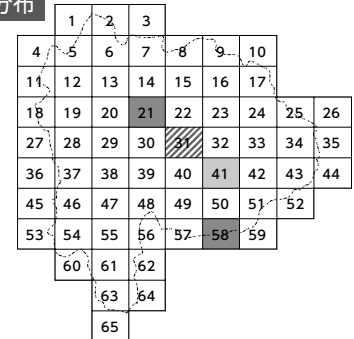
*Ixeris chinensis* (Thunb.) Nakai subsp. strigosa (H.Lév. et Vaniot) Kitam.

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 II 類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

分布



**形態** 多年草。高さ 20 ~ 50cm。根生葉は長さ 8 ~ 24cm の披針形で羽状に裂けるものから全縁のものまで変化がある。頭花の径 2cm、帯紫白色。冠毛は白く、そう果の嘴は細くて長い。花期は 4 ~ 7 月。

**生育環境** 低地帯 ~ 山地帯の乾いた草地や荒地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 3。個体数は非常に少ない。自然遷移、草地・土地開発による絶滅が危惧される。

**特記事項** 具体的要件④

# アキノハハコグサ キク科

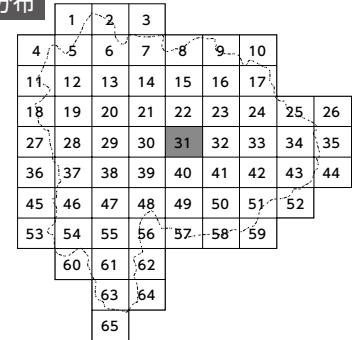
*Pseudognaphalium hypoleucum* (DC.) Hilliard et B.L.Burt

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2005：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

分布



**形態** 一年生草本。茎は上部で分岐し表面に白い綿毛が生える。高さは 30 ~ 60cm になる。葉は披針形で、長さ 4 ~ 5cm で幅 2.5 ~ 7mm、上面が緑色、裏面には白い綿毛がある。葉の基部が耳形になっており、茎を抱くようにつく。花期は 9 ~ 10 月で、茎の先端に淡黄色をした多くの頭花をつける、花期に下部の茎葉は枯れる。

**生育環境** 山地帯の日当りのよい礫地や草地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 1。今回の調査で林道の側壁に確認できたが、崩壊等環境の変化で減少が懸念される。

**特記事項** 1968 年中込司郎が増富日向で確認して以来、記録がなかったが、今回の調査で御坂山系の草地に生育が確認された。 具体的要件①

# コウシュウヒゴタイ キク科

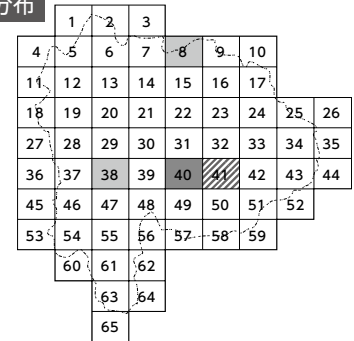
*Saussurea amabilis* Kitam.

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

分布



**形態** 多年草。茎の高さ 40 ~ 60cm。根出葉は長い柄があり、葉身は長楕円形で鋭尖頭で基部はほこ形。下面は緑白色。頭花は数個つき、総苞片の先は鋭尖形で反曲する。花期は 8 ~ 10 月。

**生育環境** 山地帯の岩場に生育。関東西部 ~ 山梨、四国に隔離分布。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 2。分布地も少なく、生育個体数も少ない。地形など環境変化による絶滅が危惧される。

**特記事項** 2005 年調査では出現メッシュ数 3。これまでの経過から 2005 年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件③

# リンネソウ スイカズラ科

*Linnaea borealis* L.

**形態** 常緑小低木。茎は径1mm、長く這い良く分枝し、開出毛がある。葉は対生につき、卵円形で、3～5個の鈍鋸歯がある。花は帯桃白色で2個下向きに咲く。花冠は漏斗形で浅く5裂。花期は7～8月。

**生育環境** 高山帯のハイマツ林下や亜高山帯の針葉樹林下に生育。分布限界種（南限）。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。踏みつけや植生の遷移による減少が懸念される。出現メッシュの減少に伴いIB類からIA類とした。

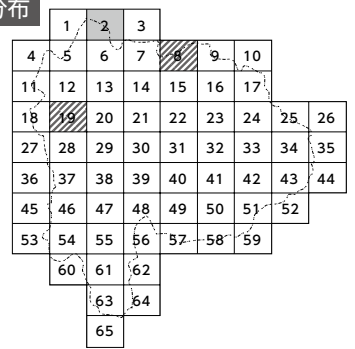
**特記事項** 2005年調査では出現メッシュ数3。これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件③④

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IA類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類 (EN)

分布



# スルガヒョウタンボク スイカズラ科

*Lonicera alpigena* L. subsp. *glehnii* (F.Schmidt) H.Hara var. *watanabeana* (Makino) H.Hara

**形態** 落葉小高木。高さ2～3m。葉は長楕円形で薄く、長さ6～14cmで、先がしだいに細まって尖る。縁に毛はあるが、他は少ない。花冠は二唇形で褐赤色、長さ約10mmくらい。花期は6月。

**生育環境** 亜高山帯の林内に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数4。個体数は少なく、森林伐採による絶滅が危惧される。シカの食害を受けており、絶滅の恐れもあるため今回の調査から本県ではIA類とした。

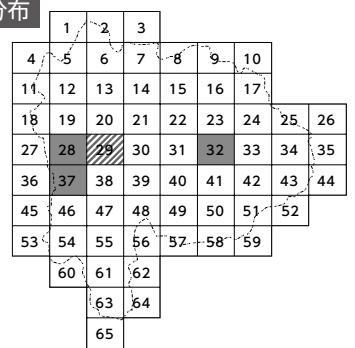
**特記事項** 本種（エゾヒョウタンボク）を本県では特徴的な種としてスルガヒョウタンボクとして表記してきたので今回もその種名で報告する。 具体的要件③④

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IA類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧IB類 (EN)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類 (EN)

分布



# クロミノウグイスカグラ スイカズラ科

*Lonicera caerulea* L. subsp. *edulis* (Regel) Hultén var. *emphyllocalyx* (Makim.) Nakai

**形態** 落葉低木。高さ0.5m以下。葉は対生につき、倒卵形～長楕円形で両面とも有毛または無毛。苞は有毛。花冠は漏斗形で5裂し、黄白色。花期は7月。8～9月に粉白を帯びた黒紫色の実が熟す。

**生育環境** 高山帯の礫地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。個体数は少ない。地形などの自然環境の変化による絶滅が危惧される。

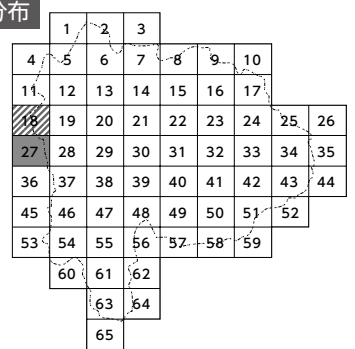
**特記事項** 今回の調査で新たな出現メッシュが確認された。ところによっては群落をつくる。 具体的要件②

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IA類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IA類 (CR)

分布



# ホザキツキヌキソウ スイカズラ科

*Triosteum pinnatifidum* Maxim.

**形態** 多年草。株全体に長軟毛を生じ、茎は叢生する。草丈は30cm。葉は対生し無柄、上部の2対は接近し輪生状となる。葉身は長さ10～15cmの楕円形から卵形、羽状に中裂する。花は淡緑色で筒状、穂状につく。果実は径8mmの球形、白熟する。花期は6月。

**生育環境** 山梨県に特産し、山地の林床に生育する。中国にも分布する。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。産地極限、自然遷移による絶滅が危惧される。

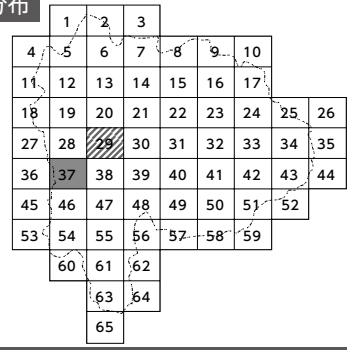
**特記事項** シカの食害を受け、分布地の個体数は減少している。 具体的要件②④

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IA類 (CR)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧IA類 (CR)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IA類 (CR)

分布



植物  
IA類

# イワツクバネウツギ スイカズラ科

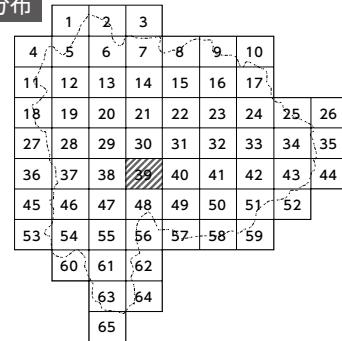
*Zabelia integrifolia* (Koidz.) Makino ex Ikuse et S.Kuros.

2018 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017 : 環境省カテゴリー  
絶滅危惧 II 類 (VU)

2005 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

## 分布



**形態** 落葉低木。葉は対生。長さ3~7cm、幅1~3cmの卵形~披針状長楕円形。縁は全縁。両面の脈上と葉のふちに粗毛がある。葉柄の基部は膨らんで相対する葉柄の基部と合着する。花は5~6月、淡紅色を帯びた花を2個つける。樹皮に溝がある。

**生育環境** 山地帯岩場に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。個体数が少なく生育地は崩落しやすい。

**特記事項** 具体的要件①

# ドクゼリ セリ科

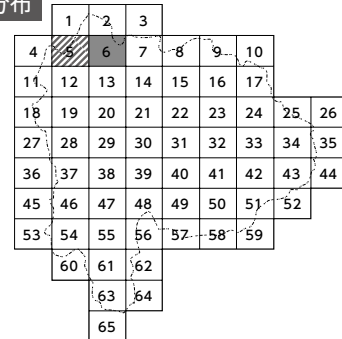
*Cicuta virosa* L.

2018 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017 : 環境省カテゴリー  
なし

2005 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

## 分布



**形態** 多年草。地下茎が太く、節間部が中空で竹の根に似る。茎は枝を分け高さ1mになる。葉は2~3回羽状複葉で、小葉は長楕円状披針形。花は白色。花期は6~7月。地下茎・根にシトクシンという毒成分を含む。

**生育環境** 湿原や湿地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。個体数は非常に少ない。湿地開発により生育地がせばめられ、絶滅が危惧される。

**特記事項** 具体的要件②

# ホンバハナウド セリ科

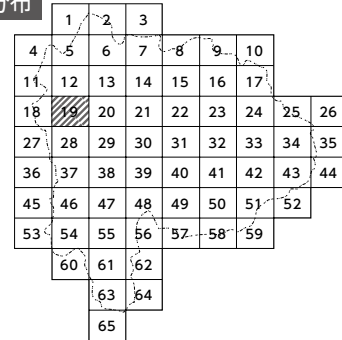
*Heracleum lanatum* Michx. subsp. akasimontanum (Koidz.) Kitam.

2018 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2017 : 環境省カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2005 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

## 分布



**形態** 大型の多年草。高さ150~200cm。葉は大きく3回羽状複葉で小葉は細長い。夏季、大型の複散形花序をつける。花序の周辺の花は他よりも大きく、また外側の1弁が大きく2裂する。葉の形については母種との中間型もある。

**生育環境** 亜高山帯の溪流沿いに生育。本県では、北岳を中心とした沢沿いに生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。個体数は極めて少ない。自然の遷移や環境の改変によっては絶滅が懸念される。

**特記事項** 具体的要件①④

# コスギラン ヒカゲノカズラ科

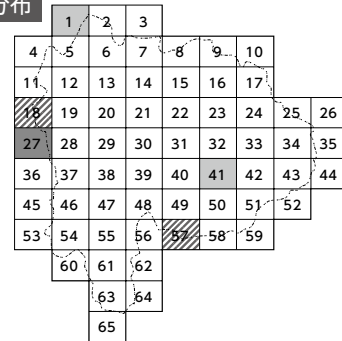
*Huperzia selago* (L.) Bernh. ex Schrank et C.F.P.Mart.

2018 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017 : 環境省カテゴリー  
なし

2005 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 II 類 (VU)

## 分布



**形態** 常緑性。茎の基部は短く斜上し、分岐し直立茎を伸ばす。葉は開出するものが多く、黄緑色から緑色、線状披針形から狭披針形、革質で光沢があり、中肋ははっきりしない。胞子葉は栄養葉よりも少し小さい。

**生育環境** 亜高山帯から高山帯の日当たりのよい草地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数3。亜高山帯で、生育箇所は比較的多いが、個体数は多くないためII類からIB類にした。

**特記事項** 2005年調査では出現メッシュ数4。これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件⑥

# トクサ トクサ科

*Equisetum hyemale* L. subsp. *hyemale*

**形態** 常緑性。茎は直立し、普通は枝を出すことがなく、高さ40cm前後に達し、直径は6mmぐらいになる。茎の隆条は、14～20で、2列に短い突起がある。葉鞘の歯芽は脱落する。胞子囊穂は、茎に直立し頂生する。

**生育環境** 落葉樹林下の沢沿いの泥質な土地や、湿地帯に群生。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数4。小群落が湿地に点在。人為的減少が多い。また、自然遷移も見られる。

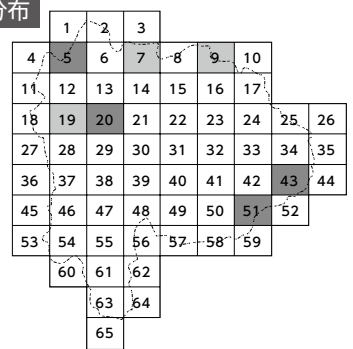
**特記事項** 具体的要件②

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類(EN)

分布



# ヒメハナワラビ ハナヤスリ科

*Botrychium lunaria* (L.) Sw.

**形態** 夏緑性。草丈は4～15cmになり、共通柄は長く、草丈の2分の1以上になる。栄養葉は短柄があり、1回羽状複葉で、羽片は扇形3～5対、頂羽片を除きほぼ同形である。胞子葉は総状ないし円錐状で、球状の胞子囊を密に着ける。

**生育環境** 亜高山帯から高山帯の日当たりのよい草地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数6。生育地が限られ個体数も少ないため継続してIB類とする。

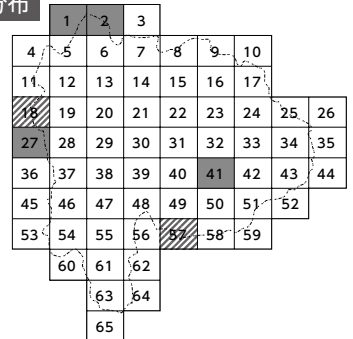
**特記事項** 具体的要件②

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧II類(VU)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類(EN)

分布



# ヒロハハナヤスリ ハナヤスリ科

*Ophioglossum vulgatum* L.

**形態** 草丈は、10～20cmぐらいになる。根茎はあまり発達しない。栄養葉は、長さ6～12cmの広卵形から楕円形。共通柄は、草丈の半分ぐらい。胞子囊穂は、1～3cm。

**生育環境** 落葉広葉樹の下草として、斜面に生育したり、裸地の下草の中に生育したりする。4月末頃から芽が出て、6月頃には枯れてしまう。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数3。生育地が少ない。まだまだ県内での調査が必要。

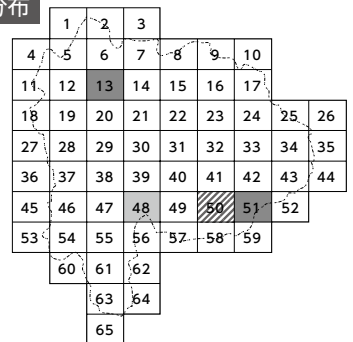
**特記事項** 出現メッシュ数、個体数を検討してIB類とした。 具体的要件⑥

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IA類(CR)

分布



# ヤマヒメワラビ ナヨシダ科

*Cystopteris sudetica* A. Braun et Milde var. *sudetica*

**形態** 夏緑性。根茎は長く匍匐し、葉をまばらに出す。葉は長さ20～40cm、葉柄は細く、通常は葉身より長く、わら色で基部は暗褐色を帯びる。葉身は、卵状三角形、3回羽状複葉、葉質は薄い草質。胞子囊群は、裂片の辺縁近くにつき、円形、胞膜は広卵形、微少な繊毛があり、基部が袋状。

**生育環境** 亜高山帯の、水気の多い砂礫地に群生。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数3。生育分布は少ないが、生育地の個体は多い。

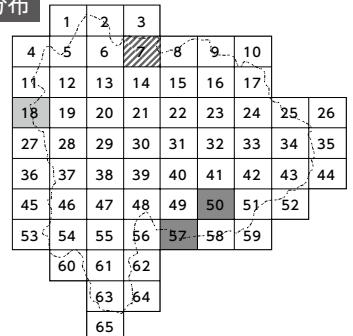
**特記事項** 具体的要件①②

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類(EN)

分布



植物  
IB類

# ウサギシダ

ナヨシダ科

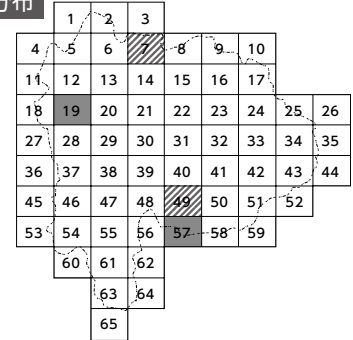
*Gymnocarpium dryopteris* (L.) Newman

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I B 類 (EN)

分布



**形態** 夏緑性。根茎は長く横走る。葉は長さ15～25cm。葉柄は葉身よりはるかに長く、わら色、無毛で、細くてもろく、基部に鱗片をつける。葉身は、やや五角形、3回羽状複葉、最下羽片は最大で、長い柄がある。葉質は薄い草質、やや赤みがかった緑色、両面とも無毛。胞子囊群は、裂片の辺縁寄りにつく。

**生育環境** 山地帯上部から亜高山帯の林下に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数4。生育地での個数は多くはない。

**特記事項** 羽片の下から2番目に葉柄をもつアオキガハラウサギシダとされてきたが、アオキガハラウサギシダを本種に含む。 具体的要件⑥

# エビラシダ

ナヨシダ科

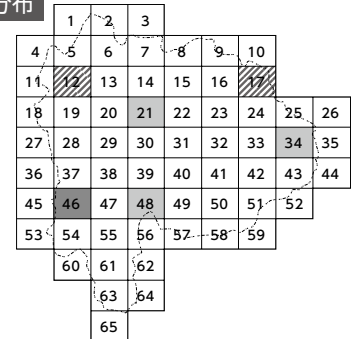
*Gymnocarpium oyamense* (Baker) Ching

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 II 類 (VU)

分布



**形態** 夏緑性。根茎は、細く、長く横に匍匐する。葉は長さ20～40cm。葉柄は細く淡緑色からわら色、無毛。葉身は葉柄に約120度の角度でつき、葉柄と中軸の移行部はやや膨らむが関節はない。葉身は、三角状卵形、単羽状深裂、葉質は薄い草質、淡黄緑色、無毛。胞子囊群は、裏面にまばらにつき、円形～長楕円形で、やや大きく包膜はない。

**生育環境** 山地の林下の日光量の少ない、やや湿潤な土および岩の斜面で生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数3。生育地での個数は少ない。

**特記事項** 2005年の調査より出現数、個体数も減少が見られるためIB類とした。 具体的要件①

# ヒメイトラノオ

チャセンシダ科

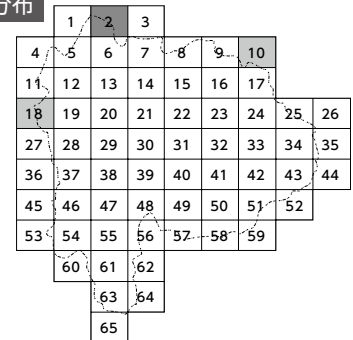
*Asplenium capillipes* Makino

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I B 類 (EN)

分布



**形態** 常緑性。イトラノオに似ているが、葉は開出して地に接してつき、小型で長さ3～10cm、葉柄は葉身とほぼ等長である。葉柄や中軸は糸のように細く、中軸には無性芽が着くことがある。胞子囊群は、楕円形で裂片に1～3個着ける。

**生育環境** 高い山地のよく湿った石垣や岩場に着生。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。生育地での個体数は少ない。似ているものがあるためにIB類で継続調査を行う。

**特記事項** イトラノオとの区別に困難な個体があるが、小型である。無性芽を着け・葉柄が長いで区別する。2005年出現メッシュ数2。 具体的要件①

# オクタマシダ

チャセンシダ科

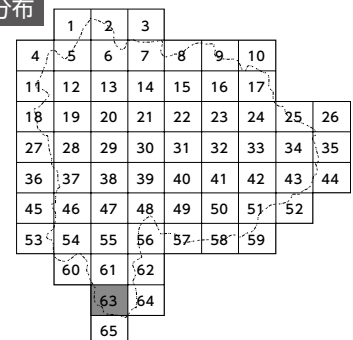
*Asplenium pseudowilfordii* Tagawa

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 II 類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
なし

分布



**形態** 常緑性。根茎は短く斜上から直立し塊状。葉はやや厚く濃黄緑色、2～3回羽状複葉で披針形。葉身の幅は平行的で、先端で細くなる。鱗片は基部に多く茶褐色。胞子囊群は、中肋と縁の中間に着く。

**生育環境** 沢沿いの日当たりの悪い岩の壁面に、コケと群生。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。分布限界種。個体数は比較的多い。

**特記事項** 2014年環境省カテゴリーII類。本県の状況から今回の調査よりIB類とした。 具体的要件⑤

# チャセンシダ

チャセンシダ科

*Asplenium trichomanes* L. subsp. *quadrivalens* D.E.Mey.

**形態** 常緑性。根茎は短く立ち、葉柄基部に鱗片をつけ、葉を叢生する。葉は全長10～30cmで、葉柄と葉軸は紫褐色で光沢があり、上面は平らで両側縁上に狭い翼をつけ、下面には翼はない。葉身は、線形で単羽複葉、葉質は堅い草質、羽片は20～30対で無毛である。孢子囊群は線形で、羽片に2～4対つく。

**生育環境** 石垣などの石の隙間に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。生育地での個数は少ない。

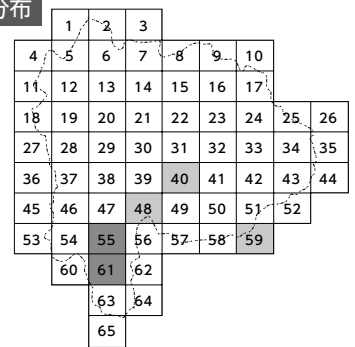
**特記事項** 2005年調査では出現メッシュ数3。これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件①②

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類(EN)

分布



# イヌチャセンシダ

チャセンシダ科

*Asplenium tripteropus* Nakai

**形態** 常緑性。チャセンシダによく似ている。葉柄と葉軸の上面は平らで両側縁上に狭い翼をつけ、下面にも翼をつけること、葉柄はやや太く折れやすいこと、葉は全体に大きいこと、葉軸の先端に無性芽をよくつけることの4点がチャセンシダと異なる。

**生育環境** 沢沿いの、岩の上に着生。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数4。生育地での個数は少ない。

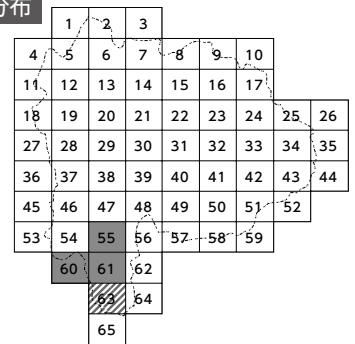
**特記事項** 2005年調査ではIA類だったが、今回の調査では出現メッシュが多く確認できたのでIB類とした。 具体的要件⑥

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IA類(CR)

分布



# アオチャセンシダ

チャセンシダ科

*Asplenium viride* Huds.

**形態** 夏緑性。根茎は短く斜上し、葉を叢生する。葉は全長4～15cm、葉柄の下部は栗褐色であるが、それから上の軸と葉は、ほぼ緑色である。葉身は、単羽状複葉、草質。羽片は、10～18対ひし状円形。葉柄はほぼ無柄か短柄を持つ。孢子囊群は羽片の中肋よりに数個着く。

**生育環境** 高山・亜高山の岩の割れ目に生育。石灰岩地帯に多い。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。生育地での個数は少ないためにIB類とした。

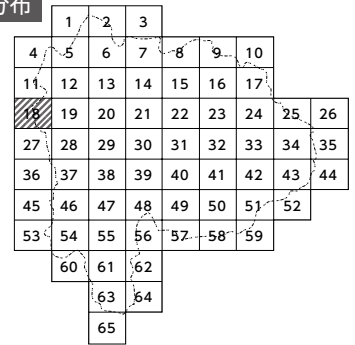
**特記事項** 具体的要件⑤

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類(EN)

分布



# トガクシデンダ

イワデンダ科

*Woodsia glabella* R.Br. ex Richards.

**形態** 夏緑性。根茎は短く斜上し、葉を叢生する。葉は長さ10cm前後の小型。葉柄は細く、基部から3分の1位の所に関節がある。葉身は線状披針形～卵状披針形で、下部羽片は小さくなる。孢子囊群は、裂片の辺縁寄りに着く。

**生育環境** 高山帯～亜高山帯の岩の割れ目に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。生育地での個体数は少ない。崩壊などの地形変更による個体数減少が懸念される。出現メッシュ数、個体数減少に伴いIB類とした。

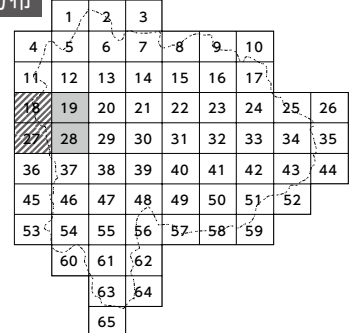
**特記事項** 2005年調査では出現メッシュ数4。これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件①②

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧II類(VU)

分布



植物  
IB類

# ヘラシダ

メシダ科

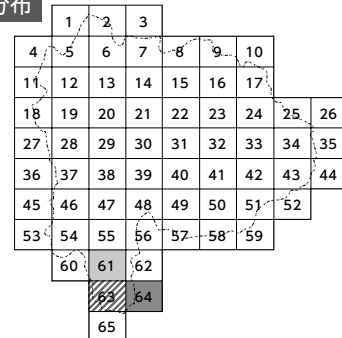
*Deparia lancea* (Thunb.) Fraser-Jenk.

2018 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017 : 環境省カテゴリー  
なし

2005 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I B 類 (EN)

分布



**形態** 常緑性。根茎は長く横走する。葉身は単葉、線状披針形、葉の縁は全縁から浅い波状縁、長さ 10 ~ 25cm。葉質は革質で無毛。葉柄は細い針金状で葉身より短い。胞子囊群は、脈に沿ってのび、線形、長さも異なる。

**生育環境** 日当たりの悪い、林下のよく湿った所に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 2。個体数は少ない。分布限界種。

**特記事項** 具体的要件②

# タチヒメワラビ

ヒメシダ科

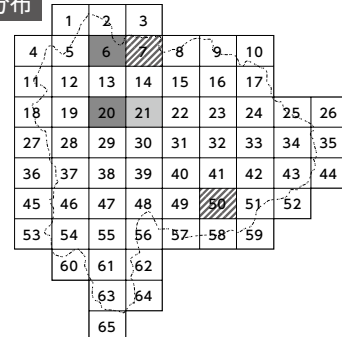
*Phegopteris bukoensis* (Tagawa) Tagawa

2018 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017 : 環境省カテゴリー  
なし

2005 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I B 類 (EN)

分布



**形態** 夏緑性。根茎は長く這い、葉をまばらに出す。葉は淡緑色、柔らかい草質。葉柄はわら色で短い。葉身は広披針形、基部は狭まり、2 回羽状に深裂する。羽片の下部は、無柄で水平に開出し、軸に重なるようにつく。植物全体に星状毛や針状毛を密につける。胞子囊群は、辺縁と中肋の中間より辺縁近くに着き、胞膜はない。

**生育環境** 山地の林縁にポツポツと立って生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 4。生育地での個体は少ない。

**特記事項** 具体的要件⑥

# オオカナワラビ

オシダ科

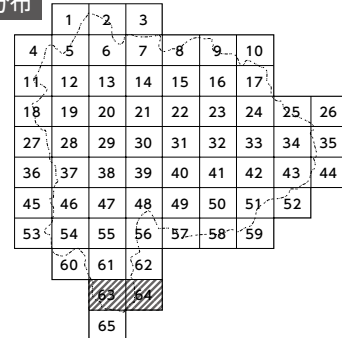
*Arachniodes amabilis* (Blume) Tindale var. *fimbriata* K.Iwats.

2018 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017 : 環境省カテゴリー  
なし

2005 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I B 類 (EN)

分布



**形態** 常緑性。根茎はやや這い、葉柄と葉柄の間隔は 0 ~ 1cm。葉の長さは 35 ~ 75cm、葉身は 2 回羽状複葉、卵状楕円形、頂羽片がはっきりしている。側羽片は、5 ~ 10 対。最下羽片の下側第一小羽片は、長くのびる。胞子囊群は、葉脈の先の裂片の辺縁近くに着く。

**生育環境** 山地のやや日当たりの良い林縁に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 2。生育地での個体数は少ない。分布限界種。

**特記事項** 具体的要件①②

# ミドリカナワラビ

オシダ科

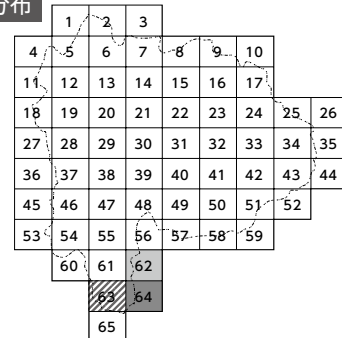
*Arachniodes nipponica* (Rosenst.) Ohwi

2018 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017 : 環境省カテゴリー  
なし

2005 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I B 類 (EN)

分布



**形態** 常緑性多年草。根茎は短く這う。葉は 130cm 前後に達し、葉身は 2 ~ 3 回羽状複葉、長卵形、長さ 40 ~ 60cm、頂羽片がはっきりしない。側羽片は、5 ~ 8 対。最下羽片の下側第一小羽片は、ほとんどのびない。小羽片の裏の脈上に多数の多細胞の毛が生えている。胞子囊群は、葉脈の先の裂片の中肋と辺縁の中間につく。

**生育環境** 山地の林内に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 2。生育地での個体数は少ない。分布限界種。

**特記事項** 具体的要件①②

# タカネシダ オシダ科

*Polystichum lachenense* (Hook.) Bedd.

**形態** 夏緑性。根茎は短く直立した葉や枯軸を叢生し、密に鱗片をつける。葉柄は長さ3～10cm、葉が枯れた後も枯れわら色の状態で残る。葉身は、単羽状複葉～2回羽状複葉、線形～線状披針形。胞子嚢群は、脈に背生し、中肋近くにつき、葉の上半分に偏る。

**生育環境** 高山の砂礫地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。個体数は少ない。

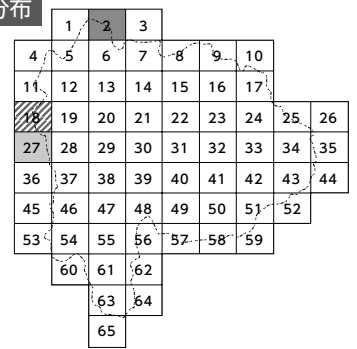
**特記事項** 具体的要件①②

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I B 類 (EN)

分布



# ヒメカナワラビ オシダ科

*Polystichum tsus-simense* (Hook.) J.Sm.

**形態** 常緑性。根茎は短く、直立から斜上し、鱗片を着ける。葉柄は葉身とほぼ等長、鱗片をまばらに着ける。葉身は、2回羽状複葉、披針形、葉質は硬紙質からやや革質。小羽片の先端が刺状、辺縁は全縁か浅裂する。胞子嚢群は、葉身の下部中肋よりから外に向けてつきはじめ、小羽片の中肋にやや近く着く。

**生育環境** 林下の沢沿いの日当たりの少ない所に生育。オニイノデと共生することが多い。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。分布限界種。生育地の環境悪化が懸念される。

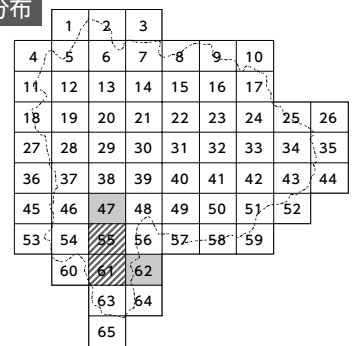
**特記事項** オオキヨズミシダとの区別が困難なものがある。2005年出現メッシュ数4。過去の生育場所に生育する可能性も考えられる。 具体的要件②

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I B 類 (EN)

分布



# アオネカズラ ウラボシ科

*Goniophlebium niponicum* (Mett.) Bedd.

**形態** 冬緑性（夏場も葉は残っている）。根茎は長く横走り、肉質で4～5mm、緑色かわずか白っぽく、鱗片をまばらにつける。葉身は広披針形、羽状に深裂し、側羽片は15～25対。葉質は、厚い革質。胞子嚢群は、中肋の近くにつき大きい。

**生育環境** 沢沿いの湿った岩や樹幹に着生。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。生育地での個数は少ない。植生の変化や土地開発による絶滅が危惧される。

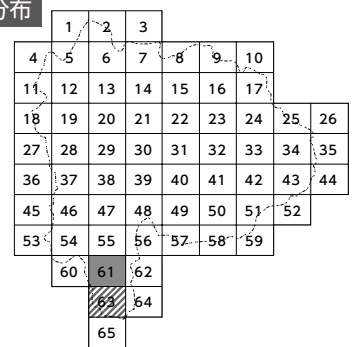
**特記事項** 今回の調査で生育数が多くなりIB類とした。 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

分布



# ヒメサジラン ウラボシ科

*Loxogramme grammitoides* (Baker) C.Chr.

**形態** 常緑性。根茎はやや長く這う。葉は単葉で長さは5～10cm、葉身は、倒披針形で先端の近くで広がる。葉柄は不明瞭。葉質は革質。鱗片は葉柄基部に多いが、葉身は無毛。胞子嚢群は長楕円形～線形中肋よりに約25度の角度で着く。

**生育環境** 林下の沢沿いの湿った岩上にコケと群生。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。個体数は比較的多い。

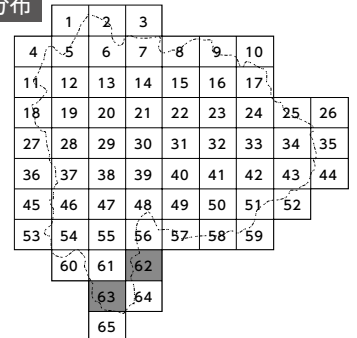
**特記事項** 本県の状況から今回の調査よりIB類とした。 具体的要件①②

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
なし

分布



植物  
IB類



# ヒトツバ ウラボシ科

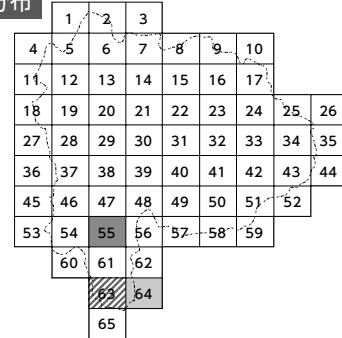
*Pyrrosia lingua* (Thunb.) Farw.

2018 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017 : 環境省カテゴリー  
なし

2005 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I B 類 (EN)

## 分布



**形態** 常緑性。根茎は針金状で長く匍匐し、茶褐色の鱗片が圧着する。葉は根茎上にまばらにつけ、長さ 30cm 前後になる。葉身は単葉で長楕円形で、厚い革質、全縁。胞子嚢群は小形の円形で、裏面に密につく。

**生育環境** 南・南西向き斜面の日当たりのよい壁面に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 2。生育地での個数は少ない。分布限界種。

**特記事項** 具体的要件①②

# ヒメバラモミ マツ科

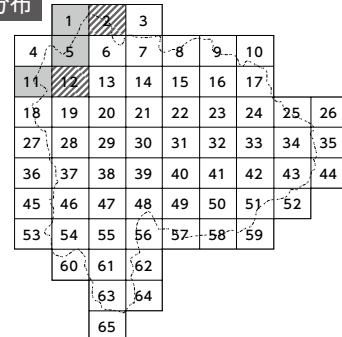
*Picea maximowiczii* Regel ex Carrière

2018 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017 : 環境省カテゴリー  
絶滅危惧 II 類 (VU)

2005 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I B 類 (EN)

## 分布



**形態** 常緑針葉高木。幹の高さ 25 ~ 35m、径 50 ~ 80cm。樹皮は灰褐色で厚い。鱗片ははげろ。葉は線形長さ 10 ~ 13mm。断面は菱形。球果は 3 ~ 6cm でこの仲間では小さい。アズサバラモミの球果は 7 ~ 9cm 葉もやや長い。個体変異があって両者の分類に難しいものがある。

**生育環境** 山地帯上部 ~ 亜高山帯下部の林中に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 2。個体数は極めて少ない。森林整備による減少が懸念される。

**特記事項** 2005 年調査では 5 メッシュ報告があった。木本であり、これまでの経過から今後も継続調査をしていく必要がある。 具体的要件②

# ミヤマビャクシン ヒノキ科

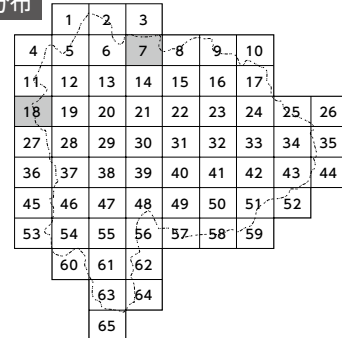
*Juniperus chinensis* L. var. *sargentii* A. Henry

2018 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017 : 環境省カテゴリー  
なし

2005 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I B 類 (EN)

## 分布



**形態** 匍匐性の常緑針葉樹。枝は斜上。葉は鱗片葉と針状葉があるが老木になると、ほとんど鱗片葉となる。

**生育環境** 日当たりがよい亜高山帯の岩場に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 2005 年出現メッシュ数 2。個体数少なく、県内では希少種。今回の調査では報告がなかったが、これまでの経過から継続して IB 類として調査を行っていく。

**特記事項** 具体的要件①②

# スギ ヒノキ科

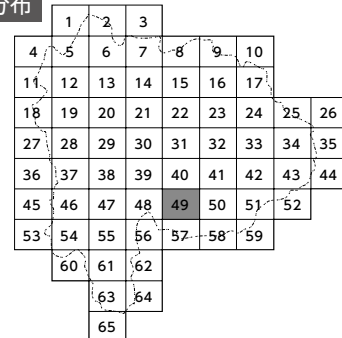
*Cryptomeria japonica* (L.f.) D. Don

2018 : 山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017 : 環境省カテゴリー  
なし

2005 : 山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

## 分布



**形態** 常緑針葉高木。樹皮は褐色で、成長した幹の樹皮は縦に裂け、帯状に剥げ易い。樹高 50m に達するものもある。日本固有種。

**生育環境** 日本固有種。本州北端から屋久島まで自生。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 1。本県では、はっきりした自然分布の林は見当たらなかったが、今回の調査で青木ヶ原樹海に原生杉の点在する集団を確認した。個体数も多いため IB 類とした。

**特記事項** この集団は県の学術参考林に指定されていたが、詳しい資料が不明であった。 具体的要件⑤

# ヒツジグサ スイレン科

*Nymphaea tetragona* Georgi

**形態** 多年草。地下茎は太く短い。水面の葉は卵円形～楕円形。花は白色、径5cmくらいで、昼開花し、夜には閉じる。花期は6～9月。

**生育環境** 古い池や沼に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。分布域が限られており、個体数は割合あると思われるが、湖沼開発及び自然遷移による絶滅が危惧される。

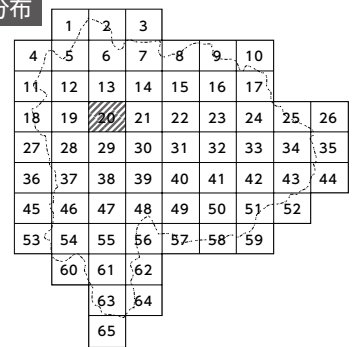
**特記事項** 山梨県希少野生動植物種の保護に関する条例による採取規制。具体的要件②

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類(EN)

分布



# ランヨウアオイ ウマノズクサ科

*Asarum blumei* Duch.

**形態** 冬緑性多年草。茎は短く地上をはい、葉は長い柄があり卵状楕円形、基部の両側は耳状に張り出す。白斑を生ずる場合もある。花は淡紫褐色。花期は3～4月。

**生育環境** 暖地の明るい樹林下に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。個体数は割合に多い。自然の遷移や環境の改変によっては減少が懸念される。

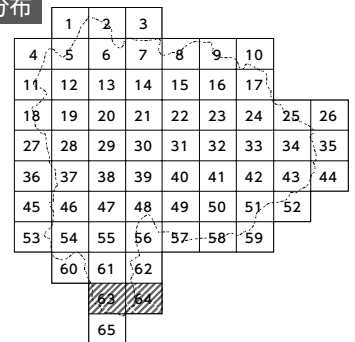
**特記事項** 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類(EN)

分布



# カンアオイ ウマノズクサ科

*Asarum nipponicum* F.Maek. var. *nipponicum*

**形態** 冬緑性多年草。茎は短く地上を這う。葉は長い柄があり卵状楕円形、基部は深い心臟形、白斑が入る場合がある。花は暗紫色で、地面上に数花を咲かせる。花柱の上部は2裂する。花期は9～10月。

**生育環境** 明るい樹林下に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数7。自然の遷移や環境の改変によっては減少が懸念される。

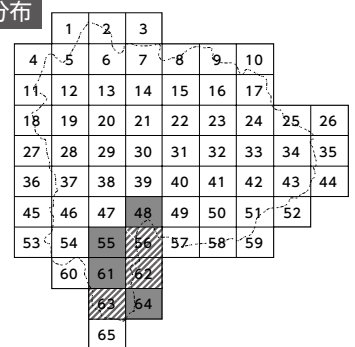
**特記事項** 具体的要件②

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類(EN)

分布



# チシマゼキショウ チシマゼキショウ科

*Tofieldia coccinea* Richards. var. *coccinea*

**形態** 多年草。根生葉の長さ3～10cm、長鋭尖形。花茎の高さ5～15cm。花序は短く総状で、花被片は白色または帯紫色になる。蒴果は斜め下向きになる。花期は7月。

**生育環境** 高山帯の岩場に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数3。個体数は少ない。

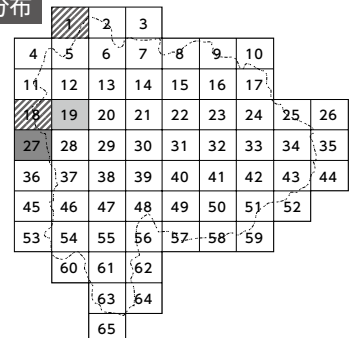
**特記事項** 具体的要件①④

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類(EN)

分布



植物  
I  
B  
類

# ヒメイワショウブ チシマゼキシヨウ科

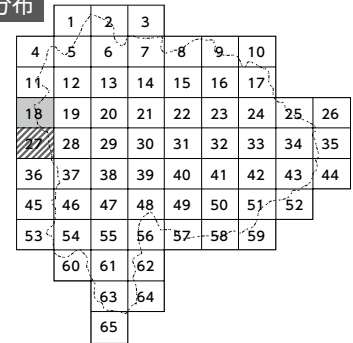
*Tofieldia okuboi* Makino

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I B 類 (EN)

分布



**形態** 多年草。茎の高さ 8 ~ 15cm。根生葉の長さ 5 ~ 8cm、線形で急に尖り縁に細かい突起がある。花序は総状で、花はまばらに上向きに咲き、花被片は淡緑白色。蒴果は下向きにならない。花期は 7 ~ 8 月。

**生育環境** 亜高山帯の草地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 1。個体数は少ない。踏みつけによる絶滅が危惧される。

**特記事項** 2005 年調査では出現メッシュ数 2 であり、これまでの経過から 2005 年調査で報告のあった場所にも生育の可能性がある。 具体的要件②④

# ミズオオバコ トチカガミ科

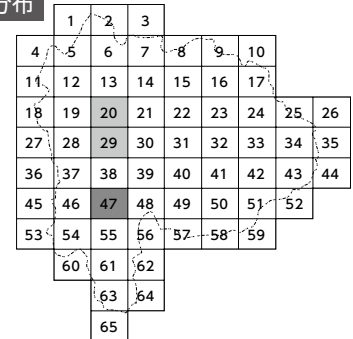
*Ottelia alismoides* (L.) Pers.

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 II 類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I B 類 (EN)

分布



**形態** 水田や溝に生える 1 年草。葉は水中にあり、葉身は長さ 10 ~ 30cm、幅 2 ~ 15cm の広披針形で長い柄があり、縁は波状に縮れる。葉の間から花茎を伸ばし、水面に径 2 ~ 3cm の白色から淡紅紫色を帯びた花が咲く。花は両性。雄しべは 3 ~ 6 個。花柱は 6 個あるが、どれも黄色である。

**生育環境** 水田、泥湿地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 1。近年水田、沼地の減少及び除草剤の使用によって分布量が減少した。今後はさらに個体数の減少が懸念される。

**特記事項** 2005 年調査では出現メッシュ数 2。これまでの経過から 2005 年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件②

# イトモ ヒルムシロ科

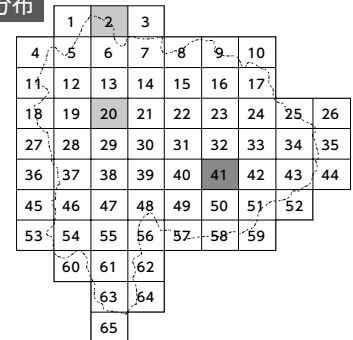
*Potamogeton pusillus* L.

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I B 類 (EN)

分布



**形態** 沈水性の多年草。茎・葉ともに非常に細い。葉はすべて沈水葉で狭線形。葉の内側に茎を抱く托葉がある。穂状花序は長さ 4 ~ 5cm。花期は 6 ~ 8 月。

**生育環境** 池や沼地、流水中に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 1。分布域が限られ個体数も少ない。水質変化・自然遷移による絶滅が危惧される。

**特記事項** 2005 年調査では出現メッシュ数 2。これまでの経過から 2005 年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件②

# ミヤマクロユリ ユリ科

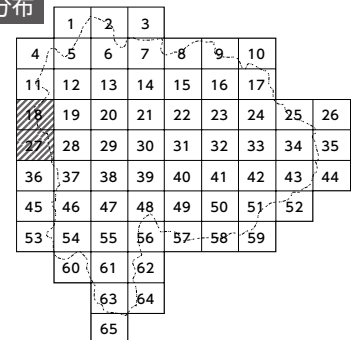
*Fritillaria camschatcensis* (L.) Ker Gawl. var. *keisukei* Makino

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I B 類 (EN)

分布



**形態** 多年草。鱗茎は球形で、径 1.5 ~ 3cm。茎の高さ 10 ~ 30cm。葉が 3 ~ 5 枚が輪生する。花は茎頂に 1 個だが、まれに 2 個つものもある。花は黒紫色。花期は 7 ~ 8 月。

**生育環境** 高山帯の雪が遅くまで残る草地に生育。高山帯で長野県側と比較した場合、山梨県側に生育するところは極限られている。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 2。地形の崩壊などによる絶滅が危惧される。

**特記事項** 本州・北海道の高山にあるものは 2 倍体  $2n=24$ 。2 倍体の高山型をミヤマクロユリとして区別した (改訂新版日本の野生植物 1: 平凡社)。 具体的要件①③

# ホンバノアマナ ユリ科

*Lloydia triflora (Ledeb.) Baker*

**形態** 多年草。鱗茎は球形。根生葉は普通1枚。茎の高さ10～20cm、中部より上に数枚の葉をつける。花は白く、2～5個を集散状につける。花期は5～6月。

**生育環境** 山地帯の草原や落葉針葉樹林下に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ7。踏みつけや草原の植生遷移による減少の危険性がある。2005年出現メッシュ数5。個体数は減少しているため今回からIB類とした。

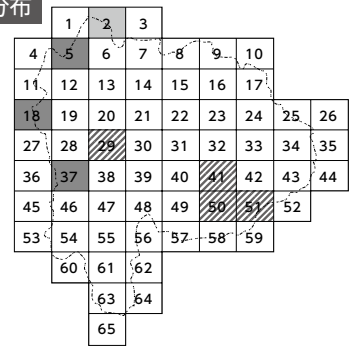
**特記事項** シカの食害を受け、分布地の個体数は減少している。 具体的要件②

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧II類(VU)

分布



# マメツタラン ラン科

*Bulbophyllum drymoglossum Maxim. ex Okubo*

**形態** 多年草。葉がシダ植物のマメツタに似る。根茎は細長く匍匐して、山地の樹幹や岩に着生する。葉は倒卵形、長さ約1cm、革質で、1節に1個ずつつく。膜質の鱗片のみの場合もある。萼片は長さ約8mm、側花弁は長さ約4mm、唇弁は広披針形で萼片より短く、淡紅紫色を帯びる。

**生育環境** 山地帯の谷間、谷川沿いの湿ったところ生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。個体数は多い。

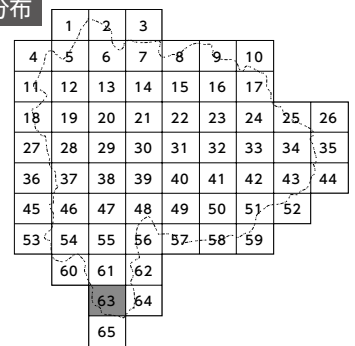
**特記事項** 2014年環境省カテゴリー準絶滅危惧。本県の状況から本種は今回の調査よりIB類とした。 具体的要件⑤

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー  
準絶滅危惧(NT)

2005：山梨県カテゴリー  
なし

分布



# ムギラン ラン科

*Bulbophyllum inconspicuam Maxim.*

**形態** 多年草。匍匐茎は針金状で細くて硬く、横に這って節から根を出す。匍匐茎の節に偽球茎をつける。偽球茎は卵形で緑色、表面は少しわがあって硬い。その先端に葉が1枚つき、偽球の下部に根を生じる。葉は楕円形、長さは1～3cm、先は丸い。葉質は肉厚で硬く、やや扁平で主脈に沿って少し折れる。偽球茎の基部から花茎が出て、先端に花を1個つける。花茎は短く、花は緑黄色。花期は7～8月。

**生育環境** 低山や社寺のカヤの木やイチヨウなどの古木に着生し、群生。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。2メッシュだが生育個体は多く、群生している。着生樹の伐採や倒木、枯死による消滅が懸念される。

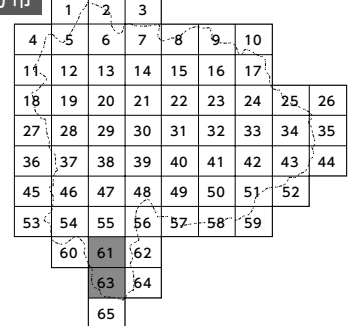
**特記事項** 2005年調査では情報不足としたが、今回確認できたのでIB類とした。 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー  
準絶滅危惧(NT)

2005：山梨県カテゴリー  
情報不足(DD)

分布



# キンラン ラン科

*Cephalanthera falcata (Thunb.) Blume*

**形態** 茎の高さ20～70cm。葉は長楕円状披針形で5～8枚が互生する。花は4～5月頃、3～12個を上向きに付け半開する。花は黄色。唇弁の先は3裂し基部は距となる。

**生育環境** 低山～山地の雑木林内や林縁に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数6。広い範囲に点在して生育するが、個体数は少なく採取圧による減少の危険性が高いため継続してIB類とする。

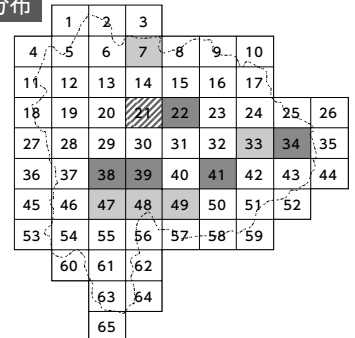
**特記事項** 具体的要件③⑥

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧II類(VU)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類(EN)

分布



植物  
IB類

# コアツモリソウ ラン科

*Cypripedium debile* Rchb.f.

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I B 類 (EN)

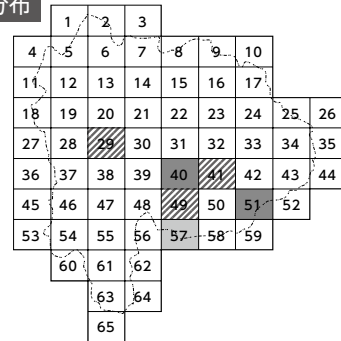
**形態** 茎の高さ 8 ~ 20cm。葉は 2 枚茎頂に対生し、花は茎頂から垂れ下がった花梗の先に下向きに咲く。唇弁は袋状で紅紫色の脈がある。蒴果は熟すと花梗が直立し上向きにつく。

**生育環境** 山地のやや湿り気のある針葉樹林下に群生するが多い。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 5。園芸採取や森林の伐採による生育環境の変化による絶滅の危険性が非常に高い。

**特記事項** 具体的要件②③

分布



# クマガイソウ ラン科

*Cypripedium japonicum* Thunb. var. *japonicum*

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 II 類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I B 類 (EN)

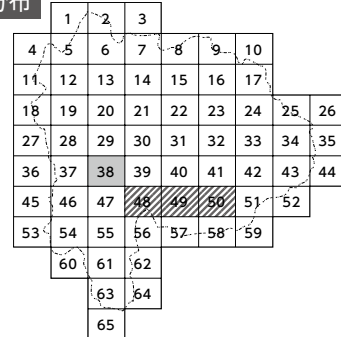
**形態** 根茎は地中浅く這い、節から茎を直立する。2 枚の扇状の葉が対生する。茎頂に苞葉がある。花被片は淡黄緑色。唇弁は袋状で淡白色 ~ 淡紅色の脈がある。

**生育環境** 丘陵 ~ 山地の樹林下、竹やぶ、ブナ帯の樹林下まで広く分布する開発や園芸採取による減少が目立ち大群落は少ない。保護地では増殖している。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 3。開発や園芸採取による減少が目立ち大群落は少ない。

**特記事項** 2005 年調査では出現メッシュ数 4。過去の報告のあった場所にも生育が考えられる。具体的要件③⑥

分布



# ツチアケビ ラン科

*Cyrtosia septentrionalis* (Rchb.f.) Garay

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 II 類 (VU)

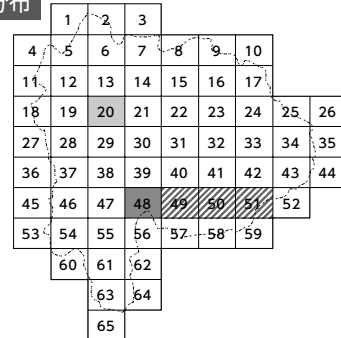
**形態** 無葉緑菌従属栄養植物。全体が褐色で、根茎は太く地中を伸びる。茎は高さ 50 ~ 100cm。褐色の鱗片葉がある。花は枝分かれた花序に多数つけ半開性。唇弁は肉質で縁は細裂し内面に突起がある。果実はバナナ状で下垂し、秋に赤く熟す。

**生育環境** 山地や丘陵の雑木林内やササ群落内に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 4。菌類と共生する種であるため、特に生育地の環境保全が必要。個体数が少ないために II 類から IB 類に変更した。

**特記事項** 具体的要件②⑥

分布



# ハクサンチドリ ラン科

*Dactylorhiza aristata* (Fisch. ex Lindl.) Soó

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I B 類 (EN)

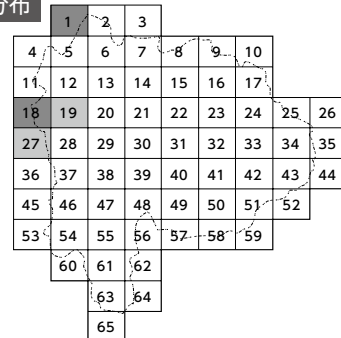
**形態** 地下茎は紡錘状に肥厚する。茎の高さ 10 ~ 40cm 葉は 3 ~ 6 枚互生し、茎の上部に紅紫色の花を 4 ~ 10 個つける。唇弁は先が浅く 3 裂し、距の長さ約 1cm、稀に白花も見られる。花期は 6 ~ 8 月。

**生育環境** 亜高山帯 ~ 高山帯のやや湿った草地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 2。踏み付けや採取による減少の危険性がある。

**特記事項** 具体的要件①

分布



# イチヨウラン ラン科

*Dactylosteinia ringens* Rehb.f.

**形態** 根はやや紡錘状に肥厚し、葉は1枚で卵形。花茎は高さ10～20cmで上部に数個の鱗片葉があり、茎頂に淡緑色の花を1個つける。唇弁は白色で紫褐色に斑紋が入る。

**生育環境** 山地帯～亜高山帯の針葉樹林下に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数9。園芸採取や生育環境の変化による減少が懸念される。

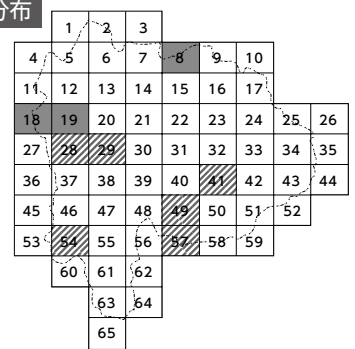
**特記事項** 具体的要件③⑥

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類(EN)

分布



# セッコク ラン科

*Dendrobium moniliforme* (L.) Sw.

**形態** 根茎は短く多数の根がある。茎は高さ5～25cm、多肉で円柱形。葉は2年生で数個互生し、披針形で、長さ4～7cm、幅7～15mm、光沢がありやや鈍頭。花は5～6月。前年の葉が落ちた茎の上部の節に花茎あたり1～2個つく。色はふつう白。桃色や黄をおびる個体もある。

**生育環境** 段温帯の樹上や岩上に着生。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。今回の調査で確認され、個体数もまとまった数であるためIB類とした。

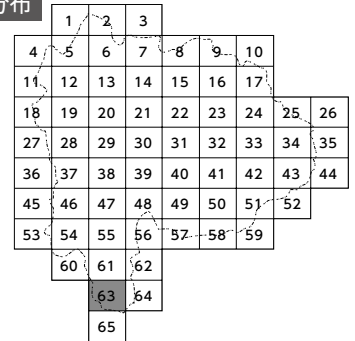
**特記事項** 山梨県植物誌に御岳昇仙峡、富士川の記載がある。近年では生育の確認がされていないため、2005年調査では情報不足扱いとしたが今回の調査で確認できた。 具体的要件⑤

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
情報不足(DD)

分布



# コイチヨウラン ラン科

*Ehippianthus schmidtii* Rehb.f.

**形態** 葉は広卵形で長い柄を持つ。花茎は細く直立し、高さ10～20cm。葉の裏面はやや紫色を帯びる。花は淡黄緑色で2～7個をまばらにつける。唇弁に鋸歯はない。

**生育環境** 山地(ブナ帯)～亜高山の針葉樹林下に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数6。植生遷移・森林伐採などによる絶滅が危惧される。

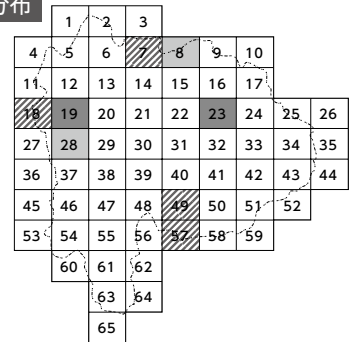
**特記事項** 具体的要件⑥

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類(EN)

分布



# マツラン ラン科

*Gastrochilus matsuran* (Makino) Schltr.

**形態** 多数のやや太い根があり、茎は細く長さ1～3cmで下垂する。葉は厚く革質で密に2列互生する。花序は葉腋から伸び、花は1～4個、黄緑色に暗紫色の斑点がある。花期は5～6月。

**生育環境** 常緑樹林内の樹幹に着生。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。着生植物であるため環境の変化に敏感である。県内では富士山の周辺に自生する。

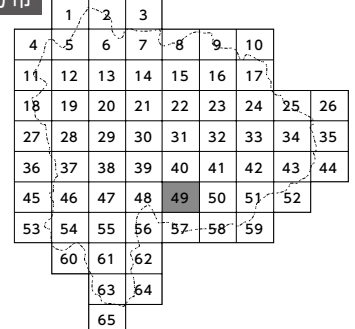
**特記事項** 2014年環境省カテゴリーII類。本県の状況から今回の調査からIB類として調査を継続していく。 具体的要件②

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧II類(VU)

2005：山梨県カテゴリー  
なし

分布



植物  
IB類

## ベニシュスラン ラン科

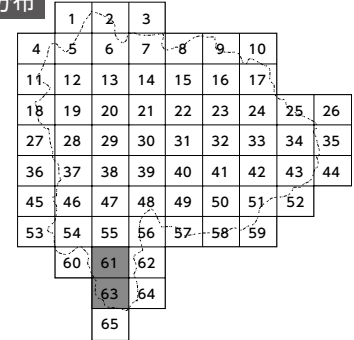
*Goodyera biflora (Lindl.) Hook.f.*

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
なし

### 分布



**形態** 樹林下に生育する常緑地生ラン。茎の基部は地面を這い、節ごとに根を出す。茎の先が数cm斜上し、葉を3~4枚互生する。葉は卵形~長卵形で、表面には主脈を中心に不鮮明な白い斑がある。花は茎の先端に淡紅色で筒状の花を2~3花つける。花期は7~8月。

**生育環境** 関東以西~九州までの樹林下で湿った土地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。自然の遷移や環境の改変によっては減少が懸念される。

**特記事項** 本県の状況から今回の調査よりIB類とした。 具体的要件①②

## ムカゴソウ ラン科

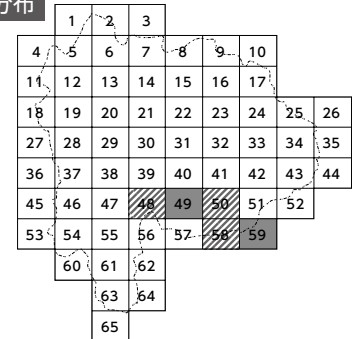
*Herminium lanceum (Thunb. ex Sw.) Vuijk*

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I B 類 (EN)

### 分布



**形態** 茎は細く、高さ20~50cm。葉は線形~広線形で、基部は茎を抱き、先端は尖る。淡緑色の花は茎の上部に密につける。唇弁は広線形で下垂し、深く3裂し、中裂片は短く、側裂片は長く裂ける。花期は6~8月。

**生育環境** 低山帯~山地帯のやや湿った草地や林縁に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数5。草原の遷移による絶滅が危惧される。

**特記事項** 具体的要件②

## スズムシソウ ラン科

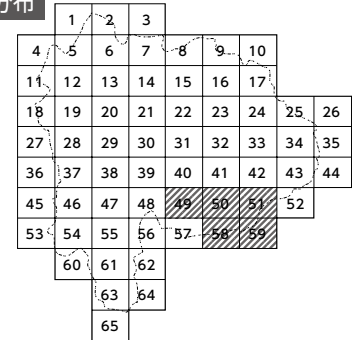
*Liparis makinoana Schltr.*

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 II 類 (VU)

### 分布



**形態** 偽球は地上生。葉は広楕円形で2枚が互生。5月頃、花茎に2~20個の淡暗紫色の花をまばらにつける。唇弁は倒卵形で中央部は浅く凹む。長さ12~17mm。

**生育環境** 山地の林内や草地に生え、カラマツ林内に多く見られる。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数5。園芸採取や植生遷移による減少が懸念される。個体数が少ないためII類からIB類へ変更した。

**特記事項** 具体的要件②③

## コクラン ラン科

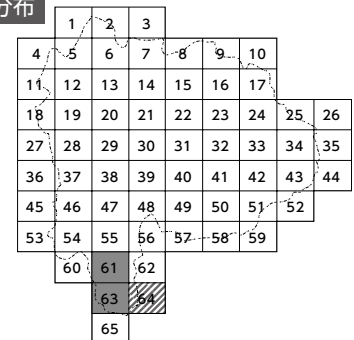
*Liparis nervosa (Thunb.) Lindl.*

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I A 類 (CR)

### 分布



**形態** 偽球は円柱状。茎の高さ15~30cm。葉は基部に2~3枚互生し、広卵形。花茎に5~10個の暗紅紫色の小さな花をつける。唇弁は楔状で縁に微鋸歯があり、中央に浅い溝がある。花期は6~7月。

**生育環境** 暖地生の常緑広葉樹林の林床に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数3。園芸採取や森林伐採による絶滅が危惧される。生育地でまとまった個体も確認されたためIA類からIB類とした。

**特記事項** 具体的要件①④

# フウラン ラン科

*Neofinetia falcata (Thunb.) Hu*

**形態** 樹幹の着生する常緑多年草。茎は短い。葉は広線形で湾曲し先は鈍頭。花は下部の葉腋から出た花柄の先に3～5花、花色は純白色。がく片及び花弁は線状披針形。唇弁は外曲し3裂し、距は細長く湾曲し下垂する。花期は7月下旬。

**生育環境** 関東以西の暖地の川沿い、沢沿いの常緑樹幹に着生。県内では南部町以南で生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。河・沢沿いの好環境では個体数は多い。環境の改変によっては減少が懸念される。

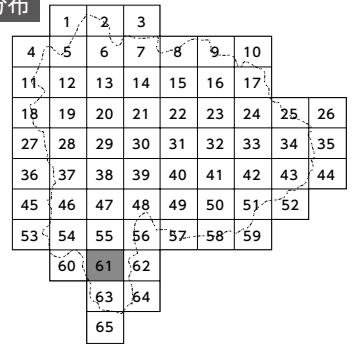
**特記事項** 2014年環境省カテゴリー絶滅危惧Ⅱ類。本県の状況からIB類として調査を継続していく。 具体的要件⑤

2018：山梨県カテゴリー絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー絶滅危惧Ⅱ類(VU)

2005：山梨県カテゴリーなし

## 分布



# ノビネチドリ ラン科

*Neolindleya camtschatica (Cham.) Nevski*

**形態** 地下茎は紡錘状に長く伸び、茎の高さ20～50cm 葉は長楕円形で縁は波打ち4～10枚互生する、茎頂に多数の花を総状につける、唇弁は先が浅く3裂し淡紅紫色、稀に白色花も見られる。花期は6～7月。

**生育環境** 山地～亜高山の樹林下や林縁の湿った草地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。園芸採取や草原の植生遷移による絶滅が懸念される。

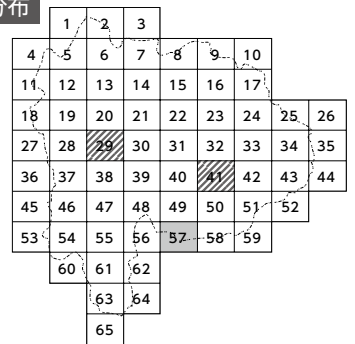
**特記事項** 2005年調査では出現メッシュ数3。これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件①③

2018：山梨県カテゴリー絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリーなし

2005：山梨県カテゴリー絶滅危惧IB類(EN)

## 分布



# サカネラン ラン科

*Neottia papilligera Schltr.*

**形態** 無葉緑菌従属栄養植物。根は束生。茎は肉質で高さ20～40cm。数個の膜質の鞘状葉があり、花序に褐色の短腺毛がある。花は淡黄色で、多数総状につく。唇弁の基部はやや袋状で内面に細点がある。先は下垂して2裂する。花期は5～6月。

**生育環境** 山地帯(ブナ帯)の林床に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数5。踏みつけや森林伐採による減少が懸念される。個体数が少ないためⅡ類からIB類に変更した。

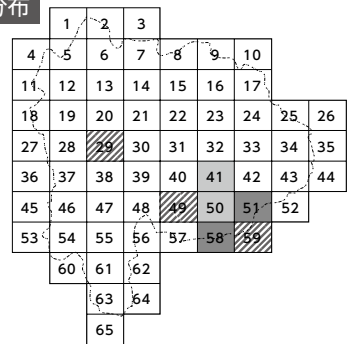
**特記事項** 長野、山梨の両県にカイサカネランが報告されている。今回の調査で初確認された。 具体的要件②③

2018：山梨県カテゴリー絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー絶滅危惧Ⅱ類(VU)

2005：山梨県カテゴリー絶滅危惧Ⅱ類(VU)

## 分布



# コケイラン ラン科

*Oreorchis patens (Lindl.) Lindl.*

**形態** 偽球は2～3個蓮珠状につく。葉は1～2枚で、披針形、先端は尖る。花茎は直立し高さ30～50cmで、黄褐色の花を総状につける。唇弁は白色で斑点があり、基部で3裂する。花期は5～6月。

**生育環境** 山地～ブナ帯の林床に生える。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数3。園芸採取・植生の遷移による減少が危惧される。生育地の個体数が少ないためⅡ類からIB類へ変更した。

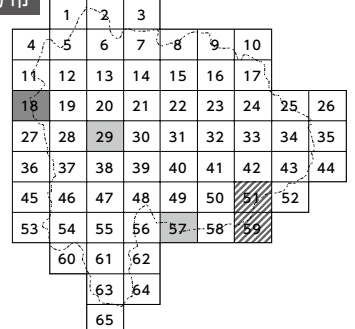
**特記事項** 具体的要件①③

2018：山梨県カテゴリー絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリーなし

2005：山梨県カテゴリー絶滅危惧Ⅱ類(VU)

## 分布



植物  
IB類



# オオバナオオヤマサギソウ ラン科

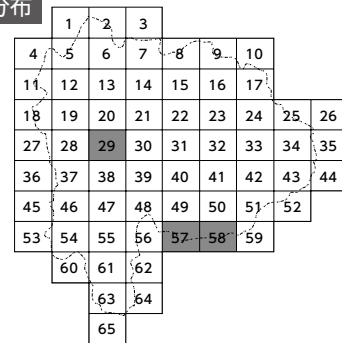
*Platanthera hondoensis (Ohwi) K.Inoue*

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 IA 類 (CR)

2005：山梨県カテゴリー  
なし

分布



**形態** 茎の高さ 40 ~ 60cm。葉はふつう 2 個が大きく、倒卵状狭長楕円形で表面に光沢がある。花は淡緑色の小花をやや密に多数総状につける。オオヤマサギソウと比べ、花が大きく唇弁の形態が異なる。

**生育環境** 冷温帯の林下、林縁、などに生える。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 3。今回の調査で生育が確認された。出現メッシュ 3 なので IB 類としたが個体数は少ない。

**特記事項** 2014 年環境省カテゴリー I A 類。本県の状況から本種は今回の調査から IB 類とした。シカの食害などの被害にあっている。 具体的要件①③

# ツレサギソウ ラン科

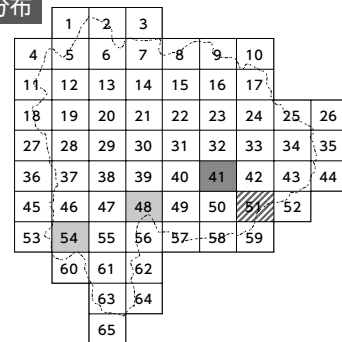
*Platanthera japonica (Thunb.) Lindl.*

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I B 類 (EN)

分布



**形態** 茎は高さ 20 ~ 50cm。葉は狭長楕円形で、長さ 10 ~ 20cm。3 ~ 5 枚互生し上部の葉は小さくなり、花序につく葉は苞となる。茎の上部に芳香のある白色花を密につける。唇弁は舌状で長く伸び、距は下垂し長さ 3 ~ 4cm と長い。花期は 5 ~ 6 月。

**生育環境** 山地の日当たりの良い草地や林縁に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 2。園芸採取や植生遷移による絶滅が危惧される。

**特記事項** 2005 年調査では出現メッシュ数 3。これまでの経過から 2005 年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件①②

# ヤマトキソウ ラン科

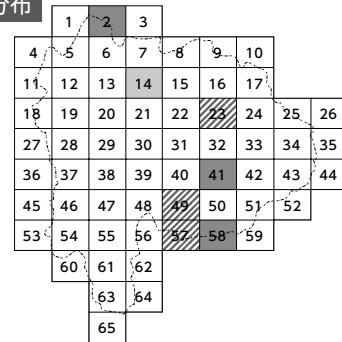
*Pogonia minor (Makino) Makino*

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I B 類 (EN)

分布



**形態** トキソウに似るが、小型の茎で、高さ 10 ~ 25cm。茎の中央より上部に狭長楕円形で、長さ 3 ~ 7cm、肉質の葉をつける。茎の先端に上向きで淡紅紫色の花を 1 個つける。全開しない。花期は 6 ~ 8 月。

**生育環境** 山地帯の日当たりの良い草地や湿地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 6。個体数は非常に少ない。生育地の草地の環境変化及び採取圧による絶滅が危惧される。

**特記事項** 具体的要件②⑥

# ニョホウチドリ ラン科

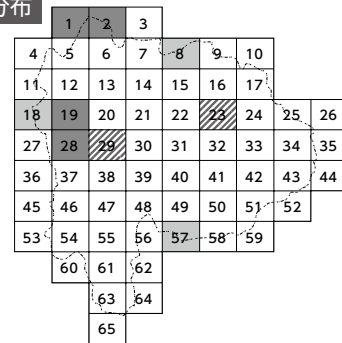
*Ponerorchis joo-iokiana (Makino) Soó*

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 II 類 (VU)

分布



**形態** 根茎は球状に肥厚し、花茎の高さ 10 ~ 30cm。葉は披針形で 2 ~ 3 枚。花は紅紫色。唇弁は広卵状くさび形で、先は 3 裂する。花期は 7 ~ 8 月。

**生育環境** 亜高山帯の草地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 6。シカの食害や園芸採取による減少と草地植生の変化による減少が懸念されるため II 類から IB 類に変更した。

**特記事項** 山梨県希少野生動植物種の保護に関する条例による採取規制。 具体的要件③⑥

# カヤラン ラン科

*Thrixspermum japonicum* (Miq.) Rchb.f.

**形態** 着生ラン。茎は細く長さ3～10cmで、下垂し下部から細長い気根が出る。葉は2列に互生し長楕円形、長さ2～4cm。葉腋から出る花茎の先に淡黄色の花を3～7個つける。唇弁は浅く3裂し側裂片は耳状で立ち上がる。花期は3～5月。

**生育環境** 低山帯の常緑針葉樹や広葉樹林の樹幹に着生。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。着生植物であり、森林伐採や採取圧による絶滅が危惧される。

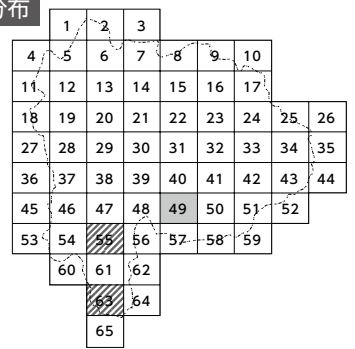
**特記事項** 2005年調査では出現メッシュ数3。これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類 (EN)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類 (EN)

分布



# ヒオウギ アヤメ科

*Iris domestica* (L.) Goldblatt et Mabb.

**形態** 多年草。地下茎は短く這い、茎は直立して上部で分岐する。高さ50～120cm。葉は2列し広剣状。花は黄赤色、花被片は6個で、全て大きさは同じ。花被片には濃黄赤色の斑点がある。1日花で花被片は振じれながら萎む。

**生育環境** 山地帯の草地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2であるが、生育地は比較的広い範囲に生える。新しい生育地も確認された。

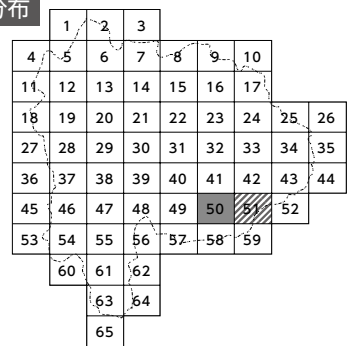
**特記事項** 全国分布では、暖帯の地方に生育するが、本県の山中湖村に2カ所生育している。年間の気温が低いこの地方に生育するのは珍しい。成因不明。 具体的要件⑤

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類 (EN)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類 (EN)

分布



# ギョウジャニンニク ヒガンバナ科

*Allium victorialis* L. subsp. *platyphyllum* Hultén

**形態** 多年草。全草に強いニンニク臭がある。鱗茎は披針形で、褐色の網状繊維に覆われる。葉は長楕円形で、長さ20～30cm。花茎は40～70cmで、茎頂に淡黄白色の小さな花を多数散形状につける。花期は6～7月。

**生育環境** 山地帯～亜高山帯のやや湿り気の林下に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。今回の調査で生育地の個体数減少からII類からIB類にした。

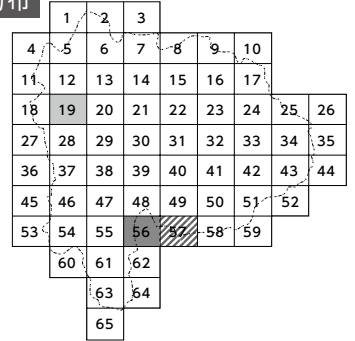
**特記事項** 昨今、山菜として採取しや環境変化による個体数の減少が懸念される。 具体的要件②③

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類 (EN)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧II類 (VU)

分布



# クロボスゲ カヤツリグサ科

*Carex atrata* L. var. *japonalpina* T.Koyama

**形態** 多年草。茎は細く、高さ30～50cm。小穂は3～5個が茎の上部に集まる。頂小穂は雌性、側小穂は雄性で、いずれも長楕円形で細い柄があり垂れ下がる。長さ10～25mm。雌性の鱗片は卵形で黒褐色。果胞は帯黄色で楕円形。嘴は短く口部は2歯になる。

**生育環境** 高山帯の草原。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。個体数は少ない。自然遷移や踏みつけによる減少が懸念される。

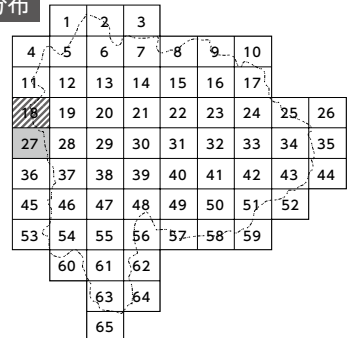
**特記事項** 2005年調査では出現メッシュ数2。これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件②

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類 (EN)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類 (EN)

分布



# カヤツリスゲ カヤツリゲサ科

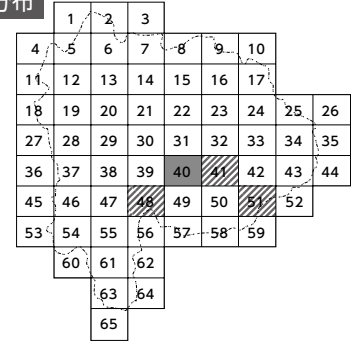
*Carex bohemica* Schreb.

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 II 類 (VU)

## 分布



**形態** 1 年草。茎は叢生し、高さ 15 ~ 30cm。葉は細く、1.5 ~ 2.5mm。小穂は多数、茎の上部に集まる。葉状の苞が 2 ~ 3 個つく。

**生育環境** 湖畔の砂地に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 4。本県では富士五湖の湖畔に点在するが、個体数は極めて少ない。

**特記事項** 個体数の関係で II 類を IB 類に変更した。 具体的要件⑥

# ヒメカワズスゲ カヤツリゲサ科

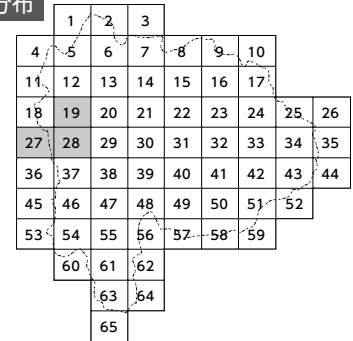
*Carex brunnescens* (Pers.) Poir.

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I 類 (EN)

## 分布



**形態** 多年草。茎は細く、高さ 15 ~ 30cm。穂状花序で、小穂は 2 ~ 7 個まばらに付く。果胞は淡緑色のちに褐色に変わる。

**生育環境** 高山帯の水湿地。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 2005 年出現メッシュ数 3。県内の高山は水湿地が少ないので、個体数は少ない。自然遷移による減少が懸念される。

**特記事項** 今回は報告がなかったがこれまでの経過から 2005 年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。今後も IB 類として継続調査を行う。 具体的要件①④

# アカンスゲ カヤツリゲサ科

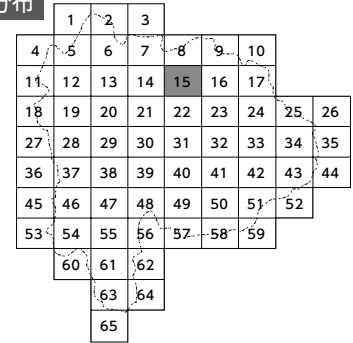
*Carex loliacea* L.

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2005：山梨県カテゴリー  
なし

## 分布



**形態** 葉は柔らかく幅 1 ~ 2mm。有花茎は高さ 20 ~ 50cm。小穂は雌雄性で長さ 3 ~ 5mm。花序は 3 ~ 5 個の小穂をやや離れてつける。

**生育環境** 亜高山帯の湿地や高層湿原に稀に生える。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 1 であるが個体数は多い。踏みつけや自然遷移により絶滅が危惧される。

**特記事項** 2014 年環境省カテゴリー IB 類。本県でも今回の調査から IB 類として調査を継続していく。 具体的要件⑤

# スルガスゲ カヤツリゲサ科

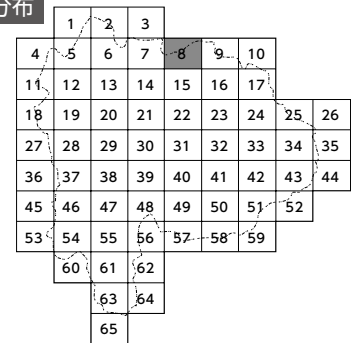
*Carex omurae* T.Koyama

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2005：山梨県カテゴリー  
情報不足 (DD)

## 分布



**形態** 茎の高さ 15 ~ 20cm。葉は果期にも有花茎より短い。全体にヒメカンスゲに似るが、鱗片は鋭頭で、凹頭とならない。果胞は無毛で長い嘴がある。

**生育環境** 山地ブナ帯の樹林内急斜面や岩場に生育する。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 1。斜面の崩壊等による個体数の減少も危惧される。

**特記事項** 原記載「植物研究雑誌 30 巻 10 号 P313 (昭和 30 年) 1954.6.5 安倍峠 1,400m alt 静岡県側」とあるが、山梨・静岡県境は未確認。今回西沢溪谷で確認できた。今後は IB 類として調査を継続する。 具体的要件②

# ハシナガカンスゲ カヤツリグサ科

*Carex phaeodon* T.Koyama

**形態** 高さ15～30cm。葉は幅2～5mm。葉の基部の鞘は赤褐色。まばらに叢生し、長い匍枝を伸ばす。果胞は長さ4～4.5mm。無毛で嘴は長く、熟すと外曲する。

**生育環境** 山地の樹林内の斜面や岩場。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。県内では旧富沢町周辺で生育が確認されたが、生育は局所的で環境の変化により絶滅が懸念される。

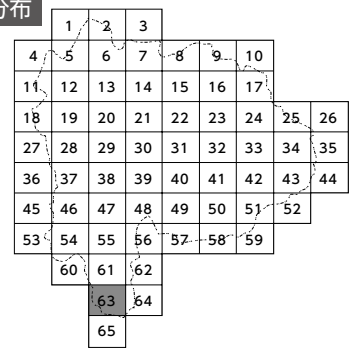
**特記事項** 今回調査で確認できた。今後はIB類として調査を継続する。 具体的要件②

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧II類(VU)

2005：山梨県カテゴリー  
情報不足(DD)

分布



# タカネナルコ カヤツリグサ科

*Carex siroumensis* Koidz.

**形態** やや大きな株を作る多年草。茎は細く、高さ20～30cm。基部の鞘は濃褐色。小穂は3～4個ついて、頂小穂は雄性。側小穂は雌性で、棍棒状長楕円形。鱗片は黒褐色。果胞は広披針形。

**生育環境** 高山帯の礫地。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 2005年出現メッシュ数3。今回は報告がなかったが、これまでの経過からIB類として継続して調査を行う。

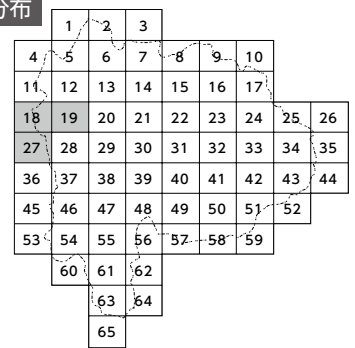
**特記事項** 今回は報告がなかったがこれまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件②

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧II類(VU)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類(EN)

分布



# オノエスゲ カヤツリグサ科

*Carex tenuiformis* H.Lév. et Vaniot

**形態** 高さ15～40cm。葉は幅2.5～4mm。果期にも葉は有花茎より著しく低い。小穂はまばらに2～4個つく。

**生育環境** 高山帯の草地や岩礫地に生える多年草。

**生育状況と絶滅危惧の状況** これまでの経過で北岳にて生育が確認されているが更なる精査を必要とするため地図メッシュには掲載しない。継続してIB類として調査を行う。

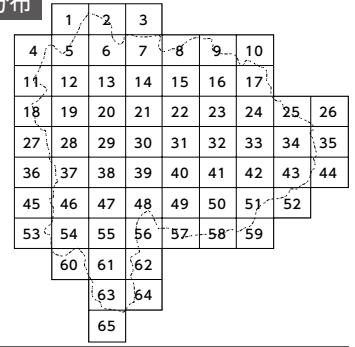
**特記事項** 2005年調査では情報不足とした。 具体的要件②

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧II類(VU)

2005：山梨県カテゴリー  
情報不足(DD)

分布



# スジヌマハリイ カヤツリグサ科

*Eleocharis equisetiformis* (Meinsh.) B.Fedtsch.

**形態** 多年草。茎の高さ30～60cm、幅1.5～2mm。茎は硬く稜がある。茎の下部の鞘はやや厚く、濃褐紫色。小穂の鱗片の先は円い。花柱基部は圧扁平の三角形。

**生育環境** 水湿地の砂地に生育するが個体数は少ない。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数5。湖畔などの開発により減少する恐れあり。

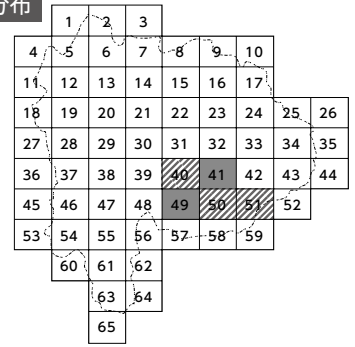
**特記事項** 2005年調査では出現メッシュ数6。これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件⑥

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類(EN)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧II類(VU)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類(EN)

分布



植物  
IB類

# ヒゲハリスゲ カヤツリゲサ科

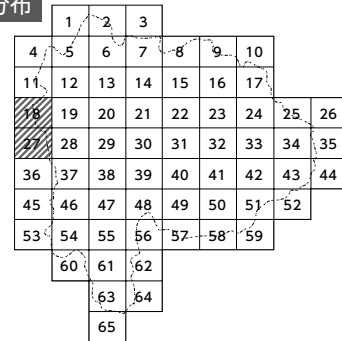
*Kobresia myosuroides* (Vill.) Fiori

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー  
準絶滅危惧 (NT)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I B 類 (EN)

### 分布



**形態** 多年草。匍匐枝はなくやや密に小株をつくる。茎は細く直立する。高さ 10 ~ 30cm。葉は内側に巻き糸状。小穂は 10 個ほどで、頂小穂は雄性、側小穂は雌雄性。他のスゲ類と違って果胞は袋状にならない。

**生育環境** 高山帯の乾いた草地。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 2。踏みつけや自然遷移による減少が懸念される。

**特記事項** 具体的要件①

# フトイ カヤツリゲサ科

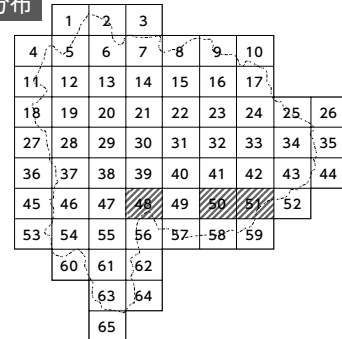
*Schoenoplectus tabernaemontani* (C.C.Gmel.) Palla

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 II 類 (VU)

### 分布



**形態** 多年草。茎は円柱形で太く、高さ 100 ~ 200cm。花序は茎頂に長短不揃いの枝に小穂をつける。小穂は楕円形、長さ 8mm ほどで、果時には褐色になる。

**生育環境** 池や沼地の水辺に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 3。全国的には少なくないが、本県では生育地が少ない。湿地開発による絶滅が危惧される。

**特記事項** 個体数の関係で今回から IB 類とする。 具体的要件①②

# ミヤマコウボウ イネ科

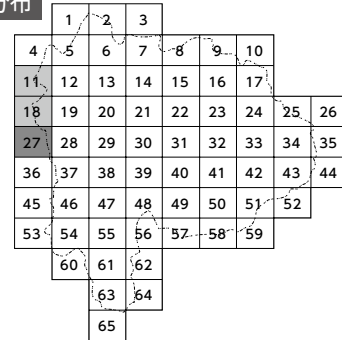
*Anthoxanthum monticola* (Bigel.) Veldkamp subsp. *alpinum* (Sw. ex Willd.) Soreng

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I B 類 (EN)

### 分布



**形態** 多年草。茎の高さ 15 ~ 25cm。茎や葉は無毛。花序は狭円錐形、長さ 1.5 ~ 4cm。小穂の長さ 5 ~ 6mm、淡褐色で光沢がある。2 個の雄性小花と 1 個の両性小花からなる。苞穎は膜質で無毛。護穎は質が厚く、背面にねた毛がある。

**生育環境** 高山帯の砂礫地。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 1。踏みつけによる減少が危惧される。

**特記事項** 2005 年調査では出現メッシュ数 2 であり、これまでの経過から 2005 年調査で報告のあった場所にも生育の可能性がある。 具体的要件①②

# ミヤマハルガヤ イネ科

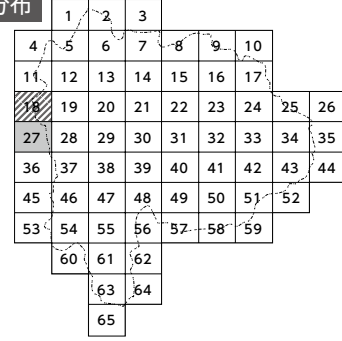
*Anthoxanthum odoratum* L. subsp. *nipponicum* (Honda) Tzvelev

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 IB 類 (EN)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧 II 類 (VU)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧 I B 類 (EN)

### 分布



**形態** 多年草。茎の高さ 15 ~ 30cm で無毛。花序は円柱形、長さ 2 ~ 5cm、直立する。帰化植物（欧州・シベリア原産）のハルガヤに似るが、本種の苞穎は無毛。

**生育環境** 高山帯の草地。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数 1。踏みつけや自然遷移による減少が危惧される。

**特記事項** 2005 年調査では出現メッシュ数 2。これまでの経過から 2005 年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件①④

# ミヤマアワガエリ イネ科

*Phleum alpinum* L.

**形態** 多年草。茎の高さ25～50cm、東生する。円錐花序は、狭円錐形、長さ1.5～4cm。小穂の長さ5～6mm、淡褐色で光沢がある。小穂は1小花。2個の苞類は同長で強く2つ折りとなる。高山で、小穂がこのような形を持つイネ科植物は他にない。

**生育環境** 高山帯の砂礫地や草地。本県の生育地は南アルプスのみ。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数1。踏みつけ、自然遷移による個体数減少が懸念される。

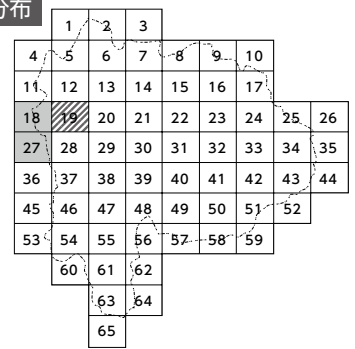
**特記事項** 2005年調査では出現メッシュ数3。これまでの経過から2005年調査で報告のあった場所にも生育が考えられる。 具体的要件②

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類 (EN)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類 (EN)

分布



# ヒロハノハネガヤ イネ科

*Stipa coreana* Honda var. *japonica* (Hack.) Y.N.Lee

**形態** 多年草。茎の高さ60～100cm。葉身の長さ10～30cm、幅7～15mm。円錐花序で、長さ10～25cm、数個の枝がでる。小穂は花軸に圧着、長さ8～11mm。1小花で淡緑色。護穎の背面に軟毛があり、先はくぼみ、その間から2～3cmの直立した太い芒が出る。

**生育環境** 日本では北海道～九州の山中の林地に分布するが、県内でも稀な植物。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数3。自然遷移による絶滅が危惧される。

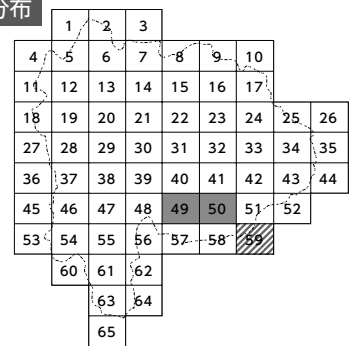
**特記事項** 本種は群落を作らず、個体が点在し、個体数が少ない。しかし、分布箇所は他にもあると思われる。よって2005年調査ではIA類としたが、今回の調査からIB類とする。 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類 (EN)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IA類 (CR)

分布



# キタダケカニツリ イネ科

*Trisetum spicatum* (L.) K.Richt. subsp. *molle* (Michx.) Hultén

**形態** 多年草。茎は直立し、高さ10～30cm。円錐花序で小穂は密につく。小花は2～3。護穎の先は2裂し、その間から4～6mmの芒が出て、外側に曲がる。近縁種のリシカニツリより全体に毛は少ないか無毛に近く、花序も太く、小穂もやや大きい。

**生育環境** 高山帯の礫地。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数2。礫地に点在する。目立たないので、踏みつけによる絶滅が危惧される。

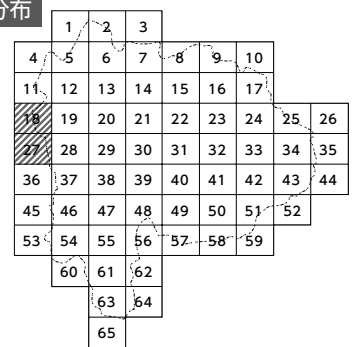
**特記事項** 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類 (EN)

2017：環境省カテゴリー  
絶滅危惧IB類 (EN)

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類 (EN)

分布



# ジロボウエンゴサク ケシ科

*Corydalis decumbens* (Thunb.) Pers.

**形態** 多年草。根出葉は塊茎の頂端に少数つき、2～3回複葉で、長い柄がある。小葉は2～3深裂。花茎は1球から数本出し、柄のある葉が2個つく。花序は少数の紅紫色の花をつける。苞は卵形で全縁。花期は4～5月。

**生育環境** 山地の林下のやや湿った所に生育。

**生育状況と絶滅危惧の状況** 出現メッシュ数3。貧弱な植物体であるため、植生遷移や踏みつけによる減少が懸念されるためII類からIB類に変更した。

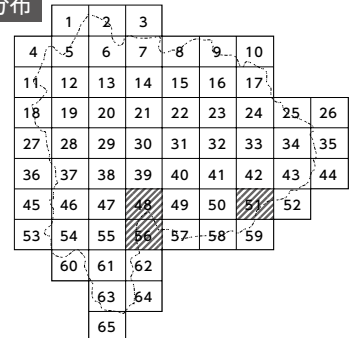
**特記事項** 具体的要件①

2018：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧IB類 (EN)

2017：環境省カテゴリー  
なし

2005：山梨県カテゴリー  
絶滅危惧II類 (VU)

分布



植物  
IB類